

目 次

新理事長・新学長就任ご挨拶

グラビア

巻 頭 言	1
お知らせ	2～5
会 務	6～10
理事会のうごき	11～12
東日本大震災対策部会	13～21
学 術	22～25
保 険	26～27
母校だより	28～30
父兄会だより	31～32
支部のうごき	33～43
クラス会だより	43～44
OB会・グループ・サークルだより	45～46
すいどうばし	47
庶務日誌	48
逝去会員	49～50
追 悼	50
へんしゅうこうき	51

(表紙 河原俊朗)

理事長就任のご挨拶

学校法人東京歯科大学
理事長 金子 讓



本年5月末に開催された学校法人東京歯科大学第671回理事会、第226回評議員会で6月から3年間の任期中で次期理事長に選任されました。平成20年6月に5期重任されて再任なったばかりの井上 裕理事長がメインキャンパスを稲毛から水道橋に移転させることを法人決定事項として整えた直後に急逝されました。このため3年弱の任期後任として熱田俊之助常務理事が理事会で選任されました。熱田新理事長は計画されていた120周年記念事業である学術大会、式典、祝賀会そして新校舎の土地購入とさいかち坂の校舎における移転事業起工式等本学の大事業を無事円滑に遂行させて下さいました。しかし、一身上のご都合により6月からの再任を辞退される意思を上記理事会で表示されましたことから私儀が本学で理事会設置以来7代目の理事長として就任をさせていただくことになったという経緯であります。リーマン・ショックによる世界的経済不況、本学の公的資金不適正使用に関する公表、さらには政治的不安定や過日の東日本大震災など激動の内外情勢にあって熱田前理事長の適切な法人運営へのご尽力に深く感謝するところであります。

本学は米国歯科医術を米国で修得した高山紀齋が明治23年（1890年）に歯科医学院を設立し今に至っているわが国最古の歯科医師育成機関であります。近代化が始まった明治時代から今日までの本学の歴史はわが国社会における変遷との合わせ鏡ともいえます。高山歯科医学院設立の「黎明期」（1890～1899）から「揺籃期」（1900～1911）、「苦闘期」（1913～1945）、成長期（1946～1959）、そして稲毛における「発展期」（1960～1990）を経て現在は少子高齢社会にあって文部科学行政方針である「競争期」にあります。

したがいまして、競争に負ければその行く末はおのずから明らかでありますので、今後の学校法人のあり方を明確にし、大学のあるべき目標を法人として明示し、井出新学長による充実した教学の進展を支援しながら、明日の東京歯科大学の発展に微力ではありますが力を尽くしたいと思っております。本学同窓の変わらぬご支援をさらにお願いたします。

学長就任のご挨拶

東京歯科大学
学長 井出 吉信



このたび7月1日付をもちまして、東京歯科大学学長を拝命いたしました。

これまで、教務部長を始め、学監、学務担当副学長として、学生教育に携わってきたおよそ13年間の経験を少しでも生かすことができればと考えます。

現在の歯科医学教育においては「全人的医療、多様化した医療への対応、基本的臨床能力の向上、医療事故抑止」などを目指して改革が進められております。この現況のなか、本学では「如何に独自性を有する優秀な学生を確保し、その学生の勉学意欲を喚起するような環境や独自の魅力あるプログラムを構築し、国民から信頼される優秀な歯科医師を世に送り出すこと」を常に念頭に置いております。この方針は、徐々に実を結び、歯科医師国家試験合格率の上昇としても顕れております。また、個々の学生にあったきめ細やかな教育手法を構築し、高い能力を備えた学生の確保がなされていることも本学の特色のひとつです。更に、海外の姉妹校で研修を行う、「Elective Study 研修制度」を実施し、国際性豊かでグローバルな視野を持つ歯科医師の育成にも取り組んでおります。

本学は受験者数の定員を例年充足しておりますが、現状に胡坐をかくことなく、金子 讓法人理事長と表裏一体となり、今後の大学運営に尽くして参る所存でございます。

平成24年度より東京・水道橋にキャンパスを移転いたします。古くから文教地域である水道橋一帯は、街全体がキャンパスのように、他大学や他研究施設、文化施設等が集まっており、これまで以上に多くの交流や情報に触れることが可能です。このようなロケーションを学びの場として、次世代の歯科医師となるべく高い志を持った学生を輩出できることを願っております。

大学は学長一人で構築できる訳ではございません。同窓の先生方のご意見も拝聴し、より良い大学を構築して行きたいと思っております。ご協力をよろしくお願いたします。

金子新理事長への表敬訪問

平成23年6月1日からの法人役員新体制が決定し、金子 譲学長が新理事長になりました。就任をお祝いして6月10日（金）に表敬訪問いたしました。



井出新学長への表敬訪問

平成23年7月1日からの新学長に井出吉信教授が選任され、7月6日（水）に就任祝いとして表敬訪問いたしました。



セピア色の写真館 ～思い出の一枚～



昭和51年 全日本歯科学学生総合体育大会 ゴルフ部門 団体戦 初優勝
(埼玉県武蔵 CC 豊岡コース)



昭和60年 夏季一般合宿
(栃木県宇都宮 CC)



昭和60年 全日本歯科学学生総合体育大会 ゴルフ部門 団体戦 準優勝
(栃木県矢板 CC)

ゴルフ部の歩み

昭和42年、ゴルフ同好会として発足しました。当時のメンバーは大久保信男、加藤富也、熊谷俊明、四條誠一（昭和46年卒）、草柳英二、松川 哲、宮奈襄二（昭和47年卒）の7名で活動を始めました。初代監督は城谷加寿雄（昭和7年卒）の紹介で大津新一（昭和7年卒）に就任していただきました。その後、昭和49年4月に同好会から部に昇格し、初代主将は菊地 香（昭和50年卒）、初代部長は矯正学講座の瀬端正之（昭和29年卒）です。

全日本歯科学学生総合体育大会でゴルフ部門が実施されたのは昭和43年で、その年より参加しています。団体戦の優勝は、昭和51年・昭和53年・昭和61年・平成9年です。

個人戦の優勝は、昭和44年・宮奈襄二（昭和47年卒）、昭和45年・熊谷俊明（昭和46年卒）、昭和53・54年2連覇の宝田一郎（昭和55年卒）、昭和58年・遠峰志津子（昭和61年卒）、平成3年・安田和光（平成5年卒）、大金詩子（平成5年卒）、平成10年・扇内博子（平成12年卒）、平成14年・青柳 彩（平成15年卒）、平成16年・宇都宮由希子（平成19年卒）、更に、平成14年日本社会人ゴルフ選手権優勝・山口公彦（昭和62年卒）です。

我々の現役時の合宿ゴルフ場は、栃木県宇都宮 CC で宿舎は旅館「はりまや」でした。

先輩達が代わる代わる訪れて、熱心に指導していただきゴルフバッグを担いで走ってラウンドしていたの

が懐かしく思えます。エチケット・マナーは厳しく指導され、ゴルフ場の職員の方への挨拶は、元気良く大きな声でやっていました。

ゴルフ部は、「文武両道」がモットーで“留年時は部活参加禁止”の伝統があり、今も引き継がれています。現在の有床義歯補綴学講座教授 櫻井 薫（昭和53年卒）、クラウンブリッジ補綴学講座教授 佐藤 亨（昭和54年卒）がゴルフ部出身で学生の指導にあたっています。ぜひ同窓生の子弟をゴルフ部へ入部させてください。後輩に充実した学生生活を送るためにサポートになればとOB 会は活動し、平成26年に創部40周年を迎える。

(昭和62年卒 杉村明邦 記)



昭和61年 全日本歯科学学生総合体育大会 ゴルフ部門
団体戦優勝メンバー (新潟県フォレスト CC)



平成22年 春季合宿

国民皆保険を崩す禁じ手

－ 窓口3割負担＋定額負担－



渉外部常任理事

島 村 大

厚労省は、社会保障と税に関する集中検討会議に外来患者の窓口負担に一定額を上乗せする定額負担を導入し、難病患者の自己負担軽減の財源にあてると提示した。この3割窓口負担プラス定額負担は、2002年の3割負担導入時の国会で、窓口負担は3割が限界とした厚労省の見解、立場を反故にするとともに、厚労省の理由のひとつの「長瀬指数」により3割窓口負担を超えると医療需要の5割を満たさない、つまり病人の半分も受診できなくなるとの政策判断を投げ捨てるものである。大震災の混乱に乘じ、国民皆保険制度の根幹を崩し、社会保障の機能弱体化をはかることに対しては如何なものかと思う。

窓口3割負担は、2002年の医療改革で導入されたが、国会審議で厚労省よりこの窓口負担水準が限界と触れられ、法案成立後、当時の官房審議官は「患者負担引き上げのカードは全て使い切った」と講演で解説してい

る。事実、健保法の附則に「将来にわたって患者負担は3割を限度とする」とあり国民と約束した。

現在も使用されている患者負担と受診行動の相関を表す「長瀬指数」により3割負担では医療需要の59.2%を満たすものの、4割負担では48.8%と病人の半分も受診できなくなる。病人の半分が使えない健康保険は、公的医療保険として意味をなさないと思われ、100円定額負担「再診料+100円」だと4割強負担になり公的医療保険は形骸化する。

この「窓口3割負担＋定額負担」は財務省の審議会で再三取り上げられてきた「免責制」に他ならない。これは1回500円または1,000円までは、医療保険の適用とせずそれを超えた部分から3割負担を適用するというものだ。この導入のためには医療を現物給付の体系から現金給付の体系に転換することが不可欠のため事実上実現できなかった。なぜなら現金給付の体系に転換したとたん混合診療が完全に解禁になるからである。そのため厚労省は現物給付の体系は維持し3割負担＋定額負担とし、抵抗感を緩和するために100円程度の別負担としたのである。「上乗せ定額負担」と称されているが、要は「上乗せ免責制」である。導入されれば、いずれ金額が財務省想定1,000円まで跳ね上がることは確実である。しかも足切り免責に比べ、この上乗せ免責は患者さん負担実額の財政効果も大きくなる。

この導入にあたり、難病の負担軽減が口実にされているが、高額療養費の適用水準を80,100円から44,400円へ引き下げること検討された。しかし2,600億円の財源手当の見通しがつかず頓挫した。これらの復活と一般には理解している。

東日本大震災の下、被災地のみならず日本全体は戦後復興にも似た状況での復旧、復興に向け歩みだしている。戦後の荒廃から国民皆保険制度を敷き、健康達成度世界一の医療制度を築いて来た。国民皆保険50周年の今年、将来に向け厳しい現実が突きつけられている。糊塗を重ねるのでなく財源調達も正面から問い社会保障の機能強化と国民の納得いく制度構築を考えるべきである。

最後に今まであらゆる歯科界の難問に対応してきた先駆者が血脇守之助先生であり、また今この時代に学園で物事を考える時代でないことも良く理解できるが、しかし今この難問に立ち向かえることができるのは「血脇イズム」を受け継いだ我が東歯大同窓しかありえないと思われる。今こそ同窓一丸となり「血脇イズム」を発揮し難問山積ではあるがひとつひとつ解決し、将来を担う若い同窓や学生に「明るい夢を語る歯科界」にしたいと思うのは私だけだろうか。

お知らせ

理事会より

- 会則検討特別委員会より答申書がだされ、第三回理事会では機構改革が最大のテーマとなりました。地域選出理事は理事会開催の2時間前に集まり事前に意見交換を行ったり、また地域支部連合会にお邪魔していただいた機構改革案に対する各地域からの意見が紹介され、理事会では白熱した議論が繰り広げられました。
- 6月、7月に計画されていた学年代表会、全国歯科大学同窓・校友会懇話会なども盛況に終わり、8月に入り24年度の事業計画案、予算案作りに役員は忙しく走り回っています。

同窓会事業・行事

- 東日本大震災チャリティー同窓会全国ゴルフ大会（40周年）
と き 平成23年9月15日（木）
ところ 武蔵カントリー倶楽部 豊岡コース（埼玉県）
- 平成23年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と き 平成23年11月26日（土）
ところ 如水会館（千代田区一ツ橋2-1-1）
- TDC 卒後研修セミナー2011プログラム
卒研セミナー
No.4 イブニングセミナー
『スタンダードプリコーション』
～感染に対する正しい知識～ 9月8日（木）
No.5 実習セミナー
『床型装置と咬合育成』
～介入時期と介入方略～ 11月27日（日）
- TDC インプラントセミナー・マスターコース
開催日程 ・9月3日（土）・4日（日）
・10月1日（土）・2日（日）

問い合わせ先：東京歯科大学同窓会学術委員会 Tel.03-5275-1761

母校関係行事・案内

- 平成23年度東京歯科大学学会
第292回総会 平成23年10月15日（土）千葉校舎
16日（日）水道橋校舎
演題締切 8月23日（火）

会務アラカルト

大山執行部では平成21年度より同窓会改革に着手しています。スリム化を進めながら各地域の会員の先生、地域の支部からの声が本部に届き同窓が一体化した足腰の強い組織ができることをめざす機構改革と、大学との連携、シンクタンク機能、若手同窓のための事業を推進することにより同窓会への求心力を高めようとする事業改革とからなっています。

すでにはじまった事業改革

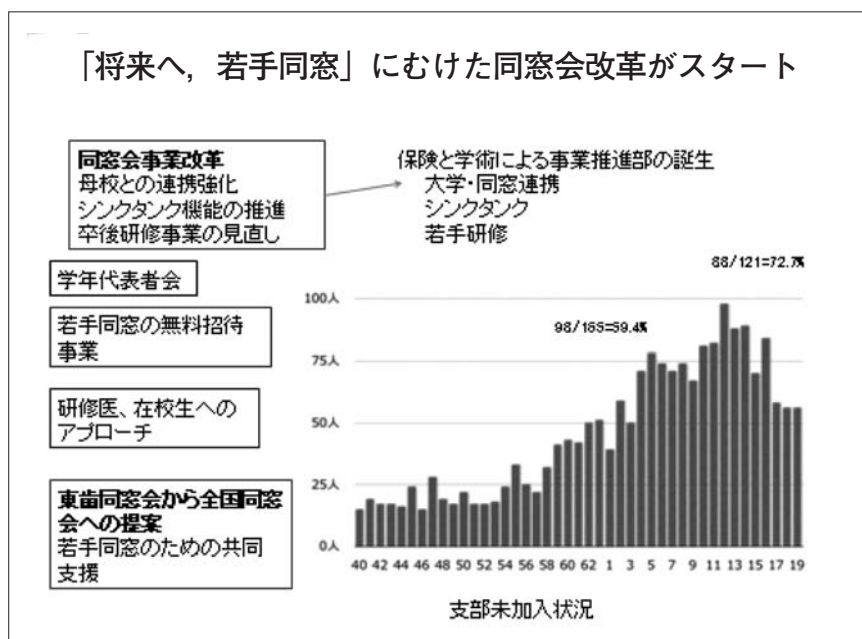
事業改革については昨年の評議員会で事業計画と予算が承認され、本年度からスタートしています。まず、学術部と保険部が一緒になり事業推進部が誕生しました。事業推進部は、今までの学術委員会と保険委員会のほかに、大学・同窓連携委員会、シンクタンク委員会、若手研修委員会が新たに加わった5つの委員会から編成され、新事業である若手研修セミナー、インプラントセミナー、歯科医療や生涯研修のあり方を考える会などを企画開催するほか、その他のいろいろな関連企画を精力的に進めようとしております。評価の高い東京歯科大学同窓会の学術部と保険部とが一緒に仕事をできるようになれば計り知れない強さが期待されます。お分かりのように今回

の事業改革では特に若手同窓の支援に重きを置いています。前述の若手研修セミナーの開催、いくつかの卒研セミナーについて卒後5年以下、卒後10年以下の同窓に無料招待を行っています。若い同窓は勤務医が多く、異動などから支部加入率が悪いといわれていますが、学年代表者会によりクラス会を通して若手同窓の目を同窓会にむけてもらえればと期待しています。その他、臨床研修医への同窓会案内の機会や、在校生への同窓会からのアプローチも計画しております。さらに先日開催された第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会では本同窓会から「若手同窓への支援について」一同窓・校友会はこれから若い同窓に何をすべきかをテーマにシンポジウムを行い、同じ地域の同窓・校友会が出身大学

に関係なく若手同窓を対象として研修会・講演会を企画開催することを全国に提案しました。このように、事業改革では、次世代をにう若手歯科医が、同窓会の役割を理解して同窓会活動に参加し、そこからまた新しい同窓会の姿をさぐるよう期待しています。

機構改革のめざすもの

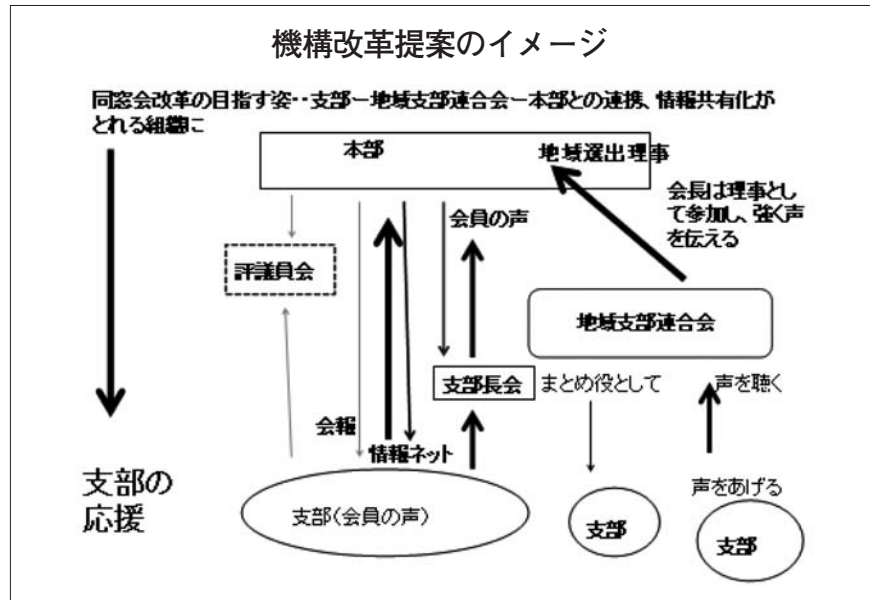
機構改革では、組織のスリム化を図りながら、会員一支部一地域支部連合会一本部との関係をもう一度見直してゆこうとしています。現在支部・会員と本部とのつながりは主に同窓会報と評議員会です。評議員会では全国の支部から選出された評議員が一堂に会し、大学からの現況報告、同窓会の会務報告、そして議題として決算、事業計画および予算や役員を選出などが議論されています。しかしながら、限られた時間内にすべての支部の代表者がそれぞれの地域の会員の意見や要望を話してもらうのは難しく、現実的にはなかなか支部・会員と本部との意見交換が成立しにくい状況となっています。機構改革の基本は情報の提供、情報の共有化であり、支部・会員からの声を反映できるようにすることにあります。改革案では、まずファックス通信を以前より活用するようにしています。今年本格スタートした情報ネット、これにより本部と支部との情報交換も密にできるようになりつつあります。すでに意見



や質問が支部長より上がり、回答もしております。そして、支部長会を地域支部連合会ごとに開催してもらうことを提案しています。そこに本部から役員が参加し、地域での意見を支部長からじかに聞き、理事会に持ち帰ります。また、地域での支部によっては若手会員の減少と高齢化により活動力低下に悩むところも少なくありません。支部単独ではなかなか解決できませんので、地域支部連合会会長に地域の取りまとめをやっていただきます。地域での課題をかかえた地域支部連合会長には本部役員として理事会に参加して頂き、地域の実情、意見、要望を上げてもらい、全国の支部・会員からの声を同窓会の執行に反映できるようにしたいとも提案しています。こうなれば、今まで以上に支部・会員と本部との距離を近づけることができると考えています。また、このような組織づくりを進めながら、評議員会をスリム化し、身動きのとれるようにしてゆきたいと考えます。

機構改革の進捗状態

機構改革は現在進行中で、執行部の役員について、評議員の選出について、地域支部連合会の役割についてが具体的な審議内容で、その中でも評議員の選出に関してその削減の方法が中心議題となっております。昨年の評議員会では、今までの支部単位の評議員選出を地域支部連合会ごとに選出することとし、その数は会員100名を単位にする方法を提案しました。この選出方法ですと128名の評議員が66名に削減されるものでした。しかし、会員数の少ない県支部では評議員を出せない状況が生まれることから、一県支部一名の評議員がでられるようとの強い要望が評議員からありました。平成23年度に入り本執行部ではこの意見を受け



止め、経過措置として一県一評議員がでられるよう改変しました。評議員の選出は、会員100名を単位とした地域支部連合会による選出を基本として、その地域支部連合会に含まれる県支部の数に評議員数が満たない場合は、一時的な経過措置として不足数を増やし補正するもので、昨年の案よりも14人増えることになりました。この考え方を基本とし、主に以下の新しい機構改革案を提案させていただきます。

- ・執行部役員、評議員の削減を行う
- ・地域支部連合会長は原則地域選出理事（役員）となる
- ・評議員は地域支部連合会会員100人を単位に選出する
- ・ただし経過措置として一県支部一人の評議員は選出できるようにする
- ・日歯役員、代議員、都道府県歯科医師会会長は、評議員ではなく参与となる
- ・クラス代表は、今後の検討課題として、とりあえず評議員枠からははずす
- ・支部長会は地域支部連合会単位で行い、本部役員が参加する

この提案を説明するため、5月から始まった各地域支部連合会の総会、そして地域支部連合会の役員会、支部長会に出席させていただき、意見をうかがってまいっております。評議員の削減については大方ご理解をいただいているようですが、特に経過措置として提案した一県一支部が出られるようにした補正については、補正された地域と補正されず激減する地域に格差が生じるという指摘、機構改革により支部一本部のつながりが弱まるのではとの懸念、地域支部連合会の会長が地域理事あるいは役員になることがその地域支部連合会の運営上無理があることなどが問題として挙げられました。いずれの問題にしましても、若い同窓の旧来と異なった同窓会への意識変化そして学生数の減少などによる同窓会の右肩下がり傾向に対して、問題解決のため必要な事業や組織規模を継続しつつ改革を急ぐ現状の中では、ある一面でのダウンサイジング、そしてそこから生じる一時的な不公平感やそのために生じる弊害を深くご理解いただき、まずは同窓一丸となり評議員改革を進めながら足腰の強い同窓会を目指すことをお願いしております。

若手同窓支援セミナー2011

「誰もが避けたい医事紛争」

もしも医療事故が起きたら！ カルテ開示に向けて必要なことは！

対象 若手同窓会員（卒後10年程度まで）

日 時：平成23年11月6日（日）13：00～17：00

場 所：水道橋 TDC ビル 13F セミナー室

受講料：同窓無料

講師：片倉 朗 オーラルメディシン・口腔外科教授

稲葉孝夫 東京都歯科医師会医事処理担当理事

山口和彦 東京歯科大学同窓会保険委員

テレビや新聞で最近報道されている医療事故。明日は我が身かもしれません。

未然に防ぐにはどうしたら良いのでしょうか。

不幸にして起ってしまった事故が医事紛争に至らないために、信頼関係を構築するには？

ディスカッションを通して、どんな些細なことでも講師陣がお答えします。

きっと明日からの臨床に役に立つこと間違いなし。奮ってご参加下さい！

講演内容 診療録に必要な内容とは？（カルテの記載について…）
医事紛争例から学ぶ（医事紛争を起こさないための心得…）
BS 製剤，抗血液凝固剤服用患者の歯科処置について
下歯槽神経麻痺の対応について

主催 東京歯科大学同窓会



若手同窓支援セミナー申し込み用紙（FAX）

卒業年度 平成

年卒

氏名

TEL

連絡先住所

東京歯科大学同窓会事務局 FAX 03-3264-4859

平成23年度東京歯科大学同窓会学年代表者会開催



平成23年度東京歯科大学同窓会学年代表者会開催

平成23年6月5日午後2時より水道橋校舎13階B教室において、平成23年度東京歯科大学同窓会学年代表者会が開催された。

本会は、本部同窓会が各クラス会の代表との対話の場として設けた新しい企画で、昭和16年卒(燦志会)の矢島敏夫先生を筆頭に、今春卒業した黄地健仁先生(百彩会)まで、49学年が出席した。会は田原邦昭常任理事の進行により進められた。片倉恵男副会長の開会の挨拶に続き、これまで逝去された多くの同窓や、東日本大震災の犠牲者に対して哀悼の意を表し黙祷が捧げられた。続く大山萬夫会長の挨拶では、「私が会長に就任してから3年が経過し、爾来同窓会の組織強化を進めたが、震災によって一つの成果が出たと思う。組織は非常時に機能を発揮する。本学の120年を長い帯に例えると、それぞれの卒業年度のクラス会が縦の糸、地区、支部をまとめている横のつながりが横の糸で、立派な帯が織り上がっている。織り上がった直後は少々歪んでいても、次の年度には綺麗に修正されていて、それが120年の力である。同窓会は大学

支援が大きな目的なのでそれに向かっていきたい。同窓は8,000人以上いて、いろいろな意見があるが、最終的には合意を得て、ここまで来ている。それを大きな同窓会の力としていきたい」と述べられ、特に若い卒業生に対しては、「最近の風潮として、組織に入ることは嫌なこともかもしれないが、目に見えない教育を受けることができる。仕事をさせられるがそれ以上のよいことがきつとあるので、それを十分にクラス全員に知らせて、レベルアップをしていただきたい。いずれ同窓会の中核としてご活躍をいただくときが必ず来る」と励まされた。最後に、震災支援金のお礼、大学への寄付金のお祝いなどを話された。

続いて大学より井出吉信副学長よりご挨拶と大学の近況報告があった。井出先生は、6月1日からの法人役員新体制、講座の統合、教授新人事、大学の収支に関する最新情報



を話され、特に移転に関しては、「用地の買収は全て完了し、来年4月にさいかち坂校舎へ新入生を迎えるための準備している。是非同窓の先生方にご寄付のご協力をお願いしたい」と話された。輝いている大学を今まで以上に続けたいと力強く述べられた。

続いて本部役員紹介のあと、同窓会からの報告として、1)学年代表者会の設置について高橋義一専務理事から、2)東日本大震災について佐々木眞澄常任理事から、3)同窓会情報ネットワークについて臼井文規常任理事から、4)寄付金につ





いて関 泰忠副会長から報告された。

まず高橋専務理事は、「平成22年度評議員会において、足腰のつよい同窓会づくりには支部を通した縦の連携、クラス会を通した横の連携を織り込むこと必要なことから学年代表者との会を開催できるよう提案し、本日の学年代表者会の開催の運びとなった。特に大山執行部では若手同窓を応援する事業を広げてあり、そのためにも若いクラス会とのつながりが必要不可欠になってくる。学年代表者会の方向性としては、クラス会が重要な位置づけにあることを認識し、まずは本部からの情報をファックス通信で行ったり、情報ネットに参加してもらうことによりクラス会からの声を聴いてゆきたいと考える。会は、大学との連携をとりながら1年に1度は開催し、会務に対するご意見、要望などをきいたり、クラス会からの要望をきいたり、必要に応じて協議したりする。今回は、大学との共催とし、第一回目の会ということで各クラスの現況を紹介、同窓会執行部会務についての報告、そして懇親を中心に進めるよう企画した。」と、本会が今日開催に至った経緯を説明された。

続いて佐々木理事からは、東日本大震災の対応について資料を基に説明され、「6月1日までに全国同窓より受け付けた被災同窓に対する支援金は256件、10,542,064円であり、さらなるご支援を賜りたい」と話された。白井理事からは、「クラ

ス会—本部 情報ネット」を立ち上げたので、登録をお願いしたいと説明された。アドレスは、class@tdc-alumni.jpで、「本部からの情報伝達や、クラス会の開催予定、クラス会からのご意見、ご要望、ご質問などを受け付ける」との説明があった。そして「アドレスは1学年1アドレスの登録で、本ネットは事務局の直接対応とはなっておらず、ご理解、ご協力をお願いしたい」とも話された。最後に関副会長より、「現在移転に係わる寄付金は317件、1億円しか集まっておらず、さらなる同窓のご協力をお願いしたい」と挨拶があった。そして「申込期間は平成24年12月30日まで、払込期間は平成25年8月までであり、一口でもよいので、さらなるご協力をお願いしたい」と重ねてお願いされた。

休憩を挟み、本日出席した49名のクラス会代表全員から、自己紹介と、クラス会の現状、同窓会への要望などが話された。クラス会費、慶弔に関わる事項、クラス会の開催の様子などが各クラス共通の話題であった。また高齢会員が多いクラスでは、会員の減少により、やむなくクラス会の解散にいたったというお話もあった。特に昭和56年卒小林顕先生(水公会)からは、評議員会にクラス会の代表が出席できなくなり、本部同窓会との連携が取りづらくなっていたが、本会を契機に良い関係を結びたいと話された。

その後、協議事項として宮地建夫副会長が登壇し、大学移転にかかわ



る寄付について、同窓会長からのクラス会への依頼、クラス会から本部広報への窓口の確認、不幸があったときのクラス代表の対応について、ファックス受信情報のデジタルデータによる提供のお願い、評議員数の削減計画の進捗状況について、被災情報など収集情報の処理の扱いをより早く進めるよう要望などについて意見の取りまとめを行った。

続いて、場所を10階に移し、懇親会が開催された。大山会長の挨拶のあと、本日出席者の最長老、昭和16年卒の矢島先生の乾杯のご発声のあと、しばし懇談し、最後に鳴神保雄同窓会顧問、西山 潔(昭和57年卒、黎明会)のタクトで校歌を斉唱し、閉会した。

クラス代表者と本部同窓会役員が一堂に会して情報や意見の交換の機会が持たれたことが意義が高いと考えられる。

今後が重要で、ファックス通信、情報ネット、広報をとおして継続的にその連携をより深めることを進めるとともに、次年度では会の開催目的をしっかりと確認しつつ、若い同窓がより参加できるような企画を大いに期待するものである。



第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会開催



平成23年7月23日(土)午後12時より東京ドームホテル・オーロラの間において、第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会が開催された。

本会は、全国28校が年一回持ち回りで開催され今回は東京歯科大学の主幹で開催された。来賓として日本歯科医師会大久保満男会長、東京都歯科医師会浅野紀元会長、日本歯科医師会中島信也常務理事、東京歯科大学金子 譲理事長、東京歯科大学井出吉信学長、衆議院川口 浩議員、参議院西村まさみ議員をお招きした。高橋専務理事の進行によりまず東日本大震災の犠牲者に対する黙祷が捧げられ、続き片倉恵男副会長

の開会の挨拶で始められた。続く大山萬夫会長の挨拶では、「歯科会が苦難な時代に、私どもはどう対応すべきかという大きなテーマを抱えている。その中で、本日は若手の支援を一つのテーマとした。併せて、全歯懇をより一層有意義なものにするにはどうすべきかについても時間の許す限り協議願いたい、全歯懇は日本歯科医師会に協力する形をとるのが本来の姿と考えているし日歯も全歯懇の力を期待している面もあるかもしれない。その意味で日歯に協力していきたい」と述べられた。つづいて大久保会長は「未入会員に伴う会員減少は日本歯科医師会におい

ても共通の問題である。平成19年を境に退会者が入会者を上回り初めて会員数が前年を下回ることとなった。退会者の主な理由は経済的な理由によるもので今後対策として入会金の値下げ、会員種別を見直し研修生の扱いも検討する。また同窓会からの歯科医師会への入会のアプローチがとても有効と考えるので特にお願いしたい。」と述べられた。続き来賓のご紹介と共に浅野会長、井出学長、西村議員よりご挨拶を賜り、本日のメインテーマである「若手同窓への支援について」のシンポジウムへと続いた。はじめに東京歯科大学石井拓男副学長より研修医制度に





ついて「臨床研修制度は日歯が医科に習って法制化を求めた結果であり、大学が要求したものではない。又政権交代後の事業仕分けにより、平成22年度に約29億円あった歯科医師臨床研修費は22億円で削減された。歯科においては85%の研修医を歯科大学病院が受け入れており内容の充実を目指す上で影響は大きい」とご講演された。続いて宮地建夫副会長より「『同窓・校友会はこれから若い同窓に何をすべきか』たとえば同窓の先輩の臨床見学、就職・開業の情報提供、保険請求の研修、臨床症例の疑問の手助け、情報ネットワークづくり等いろいろな方面からの支援が思いつくが、今回は若い同窓生への生涯研修について考えてみたい。同窓・校友会では各校で研修会や講演会を行っているが、最近の臨床研修制度を終了してきた若手同窓生対象に限って行われているものは少ない。このような現状に同じ地域の同窓・校友会が出身大学は関係なく、若手同窓支援のための研修会・講演会を企画開催できるようになれば、まして、それが全国規模に広がればすばらしいシステムになり得る。また、このようなシステムが構築されれば若手同窓生の同窓・校友会離れや未入会対策としても有効な手段と考えらる。」と問題提起された。

続いて中島常務理事は「若手歯科医師が歯科医師会に入会できていない現状が説明された。歯科医師会と若手歯科医師、大学、同窓会・校友

会のトライアングル連携の必要性を強調し生涯研修を一つのキーワードとして臨床研修医、勤務歯科医大学院に在籍する歯科医の若手育成に同じ土俵の中で貢献する立場を持つことが未入会対策につながる」と述べられ、ディスカッションへ移った。

各同窓・校友会での独自で行っている事業、若手同窓生に対する事業および未入会対策等の報告があった。「多くの大学は講演会の無料化および共同開催し多数の参加者を集め、また同窓会に興味を持ってもらうために情報のオープン化に努力した。

日本大学歯学部同窓会より参加者にメリットのあるキャリアパスがあればと要望があり、石井講師より看護師界でキャリアパスがある。また中島講師より生涯研修では、キャリアパスの検討中で認定医制度を整理しGPの認定医を検討している。続き大阪大学歯学部による周辺大学および主要都市を含むオンデマンド配信についての報告、東京歯科大学同窓会の山本常任理事は魅力ある同窓会とするために若手支援（卒業5年まで）のため保険と学術の融合したセミナーを開催している。東京歯科

大学同窓会・日本大学歯学部同窓会で共同若手支援セミナー（無料）を行っている。

愛知学院大学歯学部同窓会では国家試験に1年先輩が指導にあたり臨床研修医に対してはその上の先輩が指導する。それ以降は、同窓会員が指導する。学生支援も積極的に行っている。

日本歯科大学校友会では学生に卒業前(3・5年生)に校友会が学生に興味ある講演会を企画し歯科のイメージを伝える講義をしている。

九州大学歯学部同窓会では臨床研修医の住所の把握ができにくいので、学生6年生を対象に懇親会を開催し、同窓会役員が今後の相談をする。

鶴見大学歯学部同窓会では6年生を対象に『歯科界に旅立つに当たって』医療事故等の対処の仕方について説明する。

日本大学歯学部同窓会では卒直後のカルテ指導や音楽会を開催する。

明海大学歯学部では学生時代に3回ほど同窓会が講演、説明会を行い、卒業証書と引き替えに卒後の住所を確認する。





東京医科歯科大学同窓会ではCDEの説明と卒後の研修において若手に出席しやすいイブニングコースを開催している。学生の優秀論文に賞金を設定している。今までの反省として学生にアプローチが薄かった。」と大変興味深い情報の交換が行われた。

休憩をはさみ、第二のテーマである全歯懇の今後のあり方について高橋専務理事の進行で協議された。

アンケートの結果について山本英之常任理事より「運営方法は、多少改善をする程度で今まで通りで良いという意見が多く、運営にあたっては、会長(代表者)を置くことや会則に関しては意見がわかれた。全国歯科大学・校友会という新しい形・名称の会については賛成6校、反対・どちらとも言えないが合わせて17校であった。

学術連絡会との関係は、今まで通りより何らかの関係を持つ、情報発



信については発信する意見が多く発信先は多方面に意見がわかれた。各校の情報交換については賛成意見が多く見られた。各校の全歯懇のイメージはばらつきがあった。」と報告された。

その後各校より意見交換が行われ、全歯懇は情報交換と親睦交流の場という基本方針や当番校による運営は現状のままとし、外部への情報発信についてはその都度協議し議事録は必ず残すという形となった。

休憩を挟み、梅村長生副会長の進行で大学報告のち次々回の当番校の鶴見歯科大学が選出された。続いて高橋専務理事の進行で次回の当番校の日本大学歯学部同窓会小幡純副会長のご挨拶と次回平成24年10月6日(土)新橋第一ホテルにて開催するとの報告があった。矢崎副会長により閉会の挨拶、数多くの意見交換もあり盛況のもと閉会となった。続いて会場をシンシアの間にうつし



懇親会が佐々木真澄常任理事の進行により行われた。

開会を梅村副会長により行われ、東京歯科大学金子 譲理事長、東京都歯科医師会浅野紀元会長、衆議院川口 浩議員よりご挨拶を賜り、次期当番校の日本大学歯学部同窓会堀部和政副会長により乾杯が行われた。各テーブル大いに盛り上がりしばし歓談後、東京歯科大学同窓を含む「WAY-OUT TOKYO BIG BAND」によるジャズ演奏が行われた。ビッグバンドの迫力ある演奏が行われた。選曲を出席者の時代に合わせたとのことでさらに会場は盛り上がり、各テーブルを超え違う大学のかたとの交流が盛んに行われ全国同窓会・校友会の親睦はより深まった。

最後に宮地副会長より長い一日となったこの会への出席者および協力委員をねぎらう言葉とこれから全歯懇のますますの発展を願い閉会となった。



理事会のうごき

第2回理事会

平成23年4月16日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 27名

議長 大山会長

会長挨拶

このたびの東日本大震災にあたっては、先生方に情報の収集等ご活躍をいただいている。本部としても早急に対策本部を設けて対処している。未曾有の大災害で、当初連絡網が混乱していたこともありメールを中心に処理していたので、末端の会員に周知徹底ができなかったことなどの問題点も検討している。共済の問題についても協議いただき、被災会員に対して支援していけるよう充分ご審議を願いたい。

黙 祷

横浜鶴見支部・酒井眞一氏他10名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告および承認

1) 平成23年3月10日から12月26日までの日程を報告。

2) 各部報告

(1) 総務・厚生部：①支部学術講演会講師派遣交通費の支出について3件報告。②地域支部連合会長交代について1件報告。③支部長交代について3件報告。④支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について3件報告。⑤今回の震災に関連して予定変更された同窓会事業の報告。⑥厚生委員会について報告。⑦情報ネットワークの現況および情報ネットワークの業務一部委託契約について報告。⑧母校創立120周年記念事業募金の現況を報告。⑨第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会の準備状況について報告。⑩東日本大震災同窓会員被災状況調べ・支部被災状況アンケート等説明、東日本大震災対策部会の支援活動ほか対策の基本的な考え方を報告。

(2) 会計部：現況を報告。

(3) 渉外部：①都道府県歯科医師会会長選挙について報告。②日歯役員について報告。

(4) 広報部：①会報委員会は震災報告記事掲載など4月号の大幅変更を協議し、4、6月の合併号とし

て発行したい旨報告。また発送封筒を透明に変更することを報告。②ホームページ委員会は3月開催予定の委員会は中止とした。3月11日以降の主なHP更新状況および3月のHPアクセスレポートについて報告。

(5) 事業推進部：①学術委員会について報告。②第27回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会準備会について報告。③TDC 卒後研修セミナー2011について報告。④保険委員会について報告。また、会報4月号に掲載予定であった記事を差し替え、震災に関する保険診療とその請求方法を掲載する予定であることを報告。⑤大学・同窓連携委員会事業のインプラントセミナーについて報告。⑥シンクタンク委員会について報告。

各地域選出理事報告

1) 戸田理事（北海道）

北海道地域支部連合会臨時総会で連合会会長が交代。新執行部による役員会が開催、東日本大震災被災者への対応についても協議、今後も検討していく旨報告。

2) 高橋理事（東北）

震災に遭った東北地域各支部会員の状況をスライドで報告。秋田・山形県は被害が無かったが、青森・岩手・宮城・福島県の太平洋沿岸部はすべて津波の浸水被害を受けている。同窓会会員・関係者に関しては最悪の状況は免れたと思われる。また福島県については調査そのものができなかったが、昨日支部長より分かる範囲での状況を手紙によりお伝えいただいた内容を報告。復旧復興に向け特段のご支持・ご支援を最後までお願いする旨挨拶。

3) 長久保理事（関東）

関東地域支部連合会で評議員の削減、地域支部連合会長の任期、選出理事についてアンケートを取ったので、協議題として提案する旨報告。

4) 早速理事（東京）

東京地域支部連合会会員の日本歯科医師会役員就任について報告。東日本大震災の支援金・義援金については積極的に協力、詳細については継続審議していることを報告。

5) 飯島理事代理報告（信越）

長野県北部地震は復興途上である。3月30日に長野

県4支部総会を開催し、歯ブラシ3000本を被災地に支援した。信越地域支部連合会総会及び長野県連合総会を10月1日（土）午後には諏訪市で開催する。

6) 宮田理事（東海）

東海地域支部連合会支部長会が開催された。連合会長と地区理事の件では静岡・愛知県は可能だが、会員数の少ない三重・岐阜県は難しいという意見であった。次回から連合会関係行事は名古屋駅近くで開催することにしてはという意見もあり、今後協議していくこととなった。東日本大震災への支援金は各支部で検討していくことを報告。

7) 宮本理事（北陸）

東日本大震災では北陸地域支部連合会会員に被害は無かったが、福島原発近辺地域から同窓会会員が福井県に避難してきている。その対応について検討していることを報告。

8) 井口理事（近畿）

近畿地域支部連合会支部長会を開催予定であり、支援金・機構改革・寄付について協議することを報告。東日本大震災に関しては、震災の経験者である兵庫県が早い対応をしている等、各支部の現況を報告。

9) 山根理事（中国）

東日本大震災に対する支援については、それぞれ各支部で対応していることを報告。大学への寄付に関して個別に聞くとその意思はあるとのことが多かった。

10) 久保田理事（四国）

四国地域支部連合会開催予定を報告。各支部の東日本大震災に対する支援金対応について報告。

11) 濱田理事（九州）

各支部の東日本大震災支援金対応についてはまだ決まっていないことを報告。

協議事項

- 1) 推薦会員退会願いについて4件承認。
- 2) 共済負担金納入延期願いについて1件承認。
- 3) 会費、共済負担金納入延期願いについて1件承認。
- 4) 機構改革についての基本的な考え方を説明・提案、今後更なる意見を盛り込む事が出来るか等、意見があったが協議の結果承認。
- 5) 会務に関する諸問題への対応について説明・提案、協議の結果、承認。
- 6) 会則検討特別委員会の開催と諮問（案）、会則改正（案）について説明・提案、協議の結果、承認。
- 7) 東日本大震災における同窓の被災状況とその対応について説明・提案、協議の結果、対策部会の方向性を含め会長一任で承認。
- 8) 東日本大震災用の会員罹災報告様式の説明・提案、協議の結果、ライフラインによる被害を含め大震災用の対応で支給することとし、被災会員への共済金の支払いを可及的に速やかに行うことで承認。諸々の事項対応を含めて会長一任とする。
- 9) 既に開催が決定している第39回同窓会主催全国ゴルフ大会について、大震災後であることを鑑みて、チャリティーゴルフ大会として予定通り開催する旨の提案、協議の結果、承認。
- 10) 牛込支部、四谷支部から支部合併の要望書が提出されていることの説明、合併を本理事会で承認、その後本年度評議員会に諮ることの提案、協議の結果、承認。
- 11) 東日本大震災被災に起因する会費、共済負担金納入延期願いの取り扱いについて、被災者個々の状況の多様性が予想されるので、従来どおりの取り扱いとすることを提案、協議の結果、承認。

訂正とお詫び

会報「第381号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P39 逝去会員

上から9人目 酒井眞一先生 誤：昭31卒
正：昭35卒

下から6人目 川村 昇先生 誤：山梨県支部
正：横須賀・鎌倉支部

東日本大震災対策部会

暖かいご支援ありがとうございました。

復旧・復興には遠い道のりにあります。つづけてご支援をお願いします。

被災状況

平成23年3月11日午後2時46分、日本の観測史上最大の地震が発生しました。これにより津波が発生し東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。さらに福島第一原子力発電所での事故発生により多量の放射性物質が放出され、日本のみならず各国にも影響を及ぼしました。7月23日現在、死者は15,616人、行方不明4,949人と大きな人的被害状況が報告されています。

東京歯科大学同窓会員も多くの人が被災しました。

東日本大震災 会員罹災報告

平成23年7月6日現在

	罹災件数	罹災状況			
		A	B	C	D
青森県支部	3	0	1	0	2
岩手県支部	3	3	0	0	0
宮城県支部	39	12	14	9	4
福島県支部	42	12	15	6	9
茨城県支部	53	8	16	7	22
栃木県支部	15	0	2	2	11
千葉県支部	6	3	1	0	2
大学支部	4	0	2	0	2
芝支部	1	0	1	0	0
合計件数	166	39	52	24	52

- A：自宅または診療所が壊滅的被害を受け、診療までに1週間以上かかる状態、またはライフライン停止、避難などにより一ヶ月以上診療不能
- B：自宅または診療所が被害を受け、診療までに3～6日ぐらにかかる状態、またはライフライン停止、避難などにより2週間以上診療不能
- C：自宅または診療所が被害を受け、診療までに1～2日ぐらにかかる状態、またはライフライン停止、避難により1週間以上診療不能
- D：自宅または診療所が被害を受けたが、診療には支障がない状態、またはライフライン停止、避難などにより4から6日診療不能

が被災しました。支部長からの報告によれば、166件の同窓が被災されたとのことです。もっとも多かったのは茨城県支部の53件、ついで福島県支部の42件、宮城県支部39件、栃木県支部15件で、ほか青森県支部、岩手県支部、千葉県支部、大学支部、芝支部と9支部と広い範囲にわたっていました。各支部会員数（平成22年11月現在）に対する割合で見ますと、もっとも高いのが宮城県支部65.0%、ついで福島県支部49.4%、茨城県支部48.2%とその被害の大きさがうかがえます。壊滅的な被害、あるいはライフライン停止による1か月以上の診療停止など甚大なる被害（レベルA）をうけた同窓は、宮城県（12名）と福島県支部（12名）、茨城県支部（8名）と震源地に面する太平洋沿岸の3県に集中しました。ただ、地域によってはまだ報告が出せない状況もあり、実際にはこの数字以上とも考えられます。未だに余震と思われる強い揺れを感じることもあり、さらに被害が広がったり重度化することが懸念されます。

初期対応

地震が発生してから2日後、3月13日（日）には同窓会本部に東日本大震災対策部会を設置し、同時に同窓会ホームページ内に災害情報用の掲示板を設け、同窓からの書き込みにより被災状況の収集、同窓への災害情報の提供を図りました。この災害情報用掲示板で多くの同窓が情報交換を円滑に進められるよう、支部長、クラス代表へのファックス通

対策部会日誌

- 3月13日 東京歯科大学同窓会東日本大震災対策部会設置
同窓会 HP に『災害情報用掲示板』設置
- 3月19日 同窓会 HP のアクセス件数：一日当たり2910件を記録（パソコン数）
- 3月22日 「歯ブラシなど口腔衛生管理用品の提供のお願い」
- 3月29日 各支部に同窓被災状況アンケート
- 4月7日 『支援金窓口』開設
- 4月3, 4, 7, 9, 10日 高橋文明理事現地視察
- 4月19日 歯ブラシ等支援のお願い休止
- 5月1, 2日 大山会長、片倉副会長、高橋専務被災地お見舞い訪問
- 6月, 7月 共済金の支給
特別支援金、一般支援金など第一期支援金の支給

信、情報ネットを通してお願いしました。多くの人が災害情報用掲示板に注目し、多い日には3,000件近いアクセスがありました。その掲示板に岩手県鈴木雅夫支部長から歯ブラシなど口腔衛生管理用品の支援のお願いがあがり、さっそく歯ブラシ支援を開始しました（3月22日）。岩手県支部長に直送と本部同窓会へと2つのルートをつくり、本部においても歯ブラシだけでも3万本近く支援いただき、岩手県支部、いわき市歯科医師会、南相馬市、茨城県支部、福島県支部、南三陸町など同窓会員による支援活動とあわせて協力してまいりました。心から同窓各位にお礼申し上げます。

3月末には被災の概況を知るため全国の支部に同窓被災状況アンケー

声 明 文

全国の同窓会員の皆様へ

このたびの東日本大震災に際しまして、被災されました皆様に、こころよりお見舞い申し上げますと共に、地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。

私たち東北地域支部連合会においても、多くの同窓会員が被災し、診療所や自宅に影響がでました。とりわけ岩手県、宮城県、福島県の太平洋沿岸部では、地震と津波により、大きな被害に遭いました。

さらに福島第一原発の事故は、ついに、レベル7という最悪の事態に到達してしまい、地震、津波、原発事故、放射能汚染、風評被害といくつもの被害が重層しております。

福島県同窓会員の苦悩は察するに余りあります。

これまで全国の同窓の皆様からは、口腔ケア用品のご提供をいただきました。これにより被災された地域住民の口腔衛生と健康に、たいへんお役に立てたのではと喜んでおります。会員の安否につきましても、たいへんご心配をおかけいたしました。

義援金、見舞金等も多く寄せられました。厚くあつく御礼申し上げます。

また同窓会本部には、被災した同窓を支援するための支援金募集口座が設けられました。被災された同窓会員が、また再び地域医療に取り組めるためには、かなりの長い時間が必要とされると思います。どうかこれからも、なお一層のご支援、ご厚情をたまわりますようお願い申し上げます。東北地域支部連合会は、会員一丸となって、地域医療の復興を成し遂げるまでがんばりぬくことをお誓い致しまして御礼の挨拶と致します。

東北地域支部連合会会長 松山陽一
 青森県支部：松山陽一
 岩手県支部：鈴木雅夫
 秋田県支部：藤原元幸
 宮城県支部：小野 喬
 山形県支部：齋藤利明
 福島県支部：佐藤正矢

トをお願いし、今回の災害でどのくらいの被害を受けているかの概況を把握することができました。これら

の全国支部長から頂いた資料、東北地域支部連合会の各支部長、高橋文明東北地域理事からの被災地情報、そして支援内容についてのありがたい助言など、今回の支援活動の大きな力になったことを書き添えておきます。そして、4月に入り支援金窓口を開設しました。

支援

経済的な支援としては、支部への見舞金などの支援、同窓会共済制度による支援、義援金、同窓による同窓に対する支援金の支給を行っています。支部への支援金として、震災直後の東北6県での現地活動に対して初期活動補助金として計60万円、岩手、宮城、福島、茨城、千葉など広範囲に被災をうけた支部に対して

支部活動補助金として計100万円、壊滅的な被害を多く受けた岩手、宮城、福島のお見舞金として180万円を支給しました。そして義援金として100万円を支援し、総額で420万円の拠出となりました。

被災同窓に対する同窓会共済制度による共済金の支給に際しては、現行の共済制度では原発事故による避難やライフライン停止による診療停止を余儀なくされた場合は適応外となっておりますので、東日本大震災用の被災報告の様式を作り、適応範囲を広げました。7月6日現在166件に対し、1,030万円支払われました。共済金の支給は、今後の申請でも受け付けますので、未だ報告されていない同窓におかれましては、支部長をとおして提出のほどお願い致

【本部が受付けた支援物資】

- * 歯ブラシ：約29,000本
- * 歯間ブラシ：約5,200本
- * その他

デンタルフロス、歯磨剤、義歯洗浄剤、義歯ケース、義歯安定剤、義歯用ブラシ、デンタルリンス、紙コップ、プラスチックコップ、マスク、使い捨てカイロ、ケアセット、口腔粘膜用ブラシ等

《支援先》

- * 岩手県支部（支部長に同窓より直送された。）
- * いわき市歯科医師会（東歯S51年卒 原 英一会長）
- * 南相馬市（中川寛一教授）
- * 茨城支部：ダンボール9箱
- * 福島支部：ダンボール5箱
- * 南三陸町



します。

被災された同窓への支援を目的にした支援金窓口には、7月22日現在305件、14,708,987円のご協力をいただいております。支援金は6月～7月に第一回目、夏過ぎに2回目、評議員会以降に3回目をそれぞれ支給予定にしております。毎回集まった支援金の8割前後を支給しようと予定しています。第一回目の支給は、特別支援金と一般支援金とからなり、特別支援金は、壊滅的な被害と報告された方のうちでもその時点での復帰めどが立たない会員に支給しました。6名の同窓の先生に対し総額で340万円支援しました。また、一般支援金は、支部ごとの被災状況により支部に分配し、各支部長の状況判断により配分をお願いするものです。レベルAの罹災があった支部を対象に、レベルAとレベルBの人数から積算し、岩手県支部、宮城県支部、福島県支部、茨城県支

部、千葉県支部に総額で610万円を支援させていただきました（第一回目の支援合計950万円）。支援金協力をして頂いた先生から、共済金や支援金の支給が遅いとのこと指摘をいただいておりますが、被災地内での被災状況把握は決して容易ではなく、被災者ご本人からの報告にもとづき支部長の先生方が取りまとめられるご苦労から時間を要した次第です。また支援についても、共済金と支援金とがあり、受給される方が混乱しないように順次進めてきたためであります。しかしながら特別支援金でも家から避難したまま戻れず、住む家も仕事にも困っている様な緊急を要する会員には早期に支援をすませています。

東北地域支部連合会総会

東日本大震災で大きな被害をうけた支部が多い東北地域支部連合会総会が松山陽一会長のもと開催されま

した。被災から3ヵ月、開催も危ぶまれましたが各支部長からのご意向で開催の運びとなったとご苦労がうかがわれました。当日総会前に開催された役員協議会でも被災に関する事柄が本部役員も交じえ熱い議論がされました。総会では、東北地域支部連合会から支援に対する感謝とお願いを記した声明文が読まれ大山会長に渡されました。学術講演会では千葉病院長の高野伸夫先生が講演されましたが、終了後高野伸夫先生は講演料をそのまま松山会長にお見舞いとして差し出され、受け取った松山会長は出席者総意のもと大山会長に支援金として預けられました。予想もしていなかった場面に満場の拍手となり、大変心ごむひとときを過ごさせていただきました。

その後の支援

原発事故の影響はいまだに残り、避難されている同窓におかれましても過酷な状況は続いていますし、仕事の再開の目途もたっておりません。また、地震や津波で壊滅的な被害を受けた方々も、報道などでは復興の兆しが強く映し出されていますが、現実的には目に見えないストレスが残っているように強く感じます。瓦礫が残るところも多く、地域自体の復興はおくれています。たとえ診療再開といえましても決して震災以前の“当たり前”の普通状況に近づくことはありません。全国同窓におかれましては、被災地の先生方と心をつにし、いままでにも増してご支援をお願いする次第であります。

第1回の支援金支給状況

特別支援金（個人に対して） 合計 340万
 福島県支部 2件、宮城県支部 50万×3件、
 茨城県支部 1件

A、Bの人数割合によって支部に支給
 岩手県支部 30万、宮城県支部 190万
 福島県支部 195万、茨城県支部 160万
 千葉県支部 35万

一般支援金（支部に対して） 合計 610万
 7月1日現在でAの報告があった支部を対象に、

第1回支給額合計 950万円（特別支援金＋一般支援金）

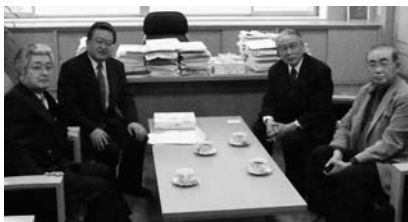
東日本大震災被災地視察と会員お見舞い訪問記

東日本大震災の被災地の状況にはいまだ心を痛める状況です。瓦礫の残る岩手、宮城、福島 of 被災地を、大山会長は5月に訪問し現地状況、要望をつぶさに聞いて参りました。以下その報告をいたします。



1日目（5月1日）

大山会長、片倉副会長、高橋専務理事は5月1日（日）羽田に集合し、東日本大震災被災地に向いました。花巻空港にて岩手県支部長鈴木雅夫先生の出迎えをうけ、その場にて岩手県支部へのお見舞いを申し上げました。



ここで地域選出理事高橋文明先生と合流し、この後二つのグループに分かれお見舞いに行きました。大山会長、片倉副会長は鈴木支部長の車に乗って、花巻空港から東北自動車道で盛岡市の岩手県歯科医師会館へ行き箱崎会長と面談し、被災された岩手県歯科医師会員に対するお見舞いを申し上げました。そして、昼食もそこそこに、盛岡13時46分発の新幹線にて仙台へ向かいました。仙台

では、出迎えて頂いた宮城県支部長小野 喬先生の車で、今回の震災により最も悲惨な津波被害を受けた地区へと向かいました。

仙台駅を出て車中から見る街の風景は、道路・ビル・家屋等地震の被害をそれ程感じることはありませんでしたが、若林区に差し掛かると少しずつ津波被害が見てとれる様になり、凡そ30分程の道程で多賀城市に入るとその情景は一気に悲惨さを増しました。まさに壊滅的で「息を呑

む」光景の連続でした。多賀城市の隣の七ヶ浜町も集落は消滅し、瓦礫の山と化していましたが、小野支部長の「ここ菖蒲田浜は風光明媚で夏は海水浴場としてもとても良い所でした」との言葉には、郷土を誇る気持ちと津波被害の無念さをしみじみと感じ、再び元の姿に戻る日を心から祈らずには居られませんでした。

帰路は三陸道・仙台東部道路を仙台に向かいましたが、沿道の仙台平野の穀倉地帯は泥に埋まり、到る所に瓦礫と化した車の残骸や在るべき筈のない漁船のある光景を目の当たりにしました。

一方高橋専務、高橋理事は花巻空港から東北自動車道で一閃へ、そして284号線で一路気仙沼に向いました。気仙沼では津波被害がひどく、その情景は惨憺たるものでした。

最初訪れた菅原初夫先生（昭和51年卒）の診療所はそんな地域の中にもありました。先生の診療所をみると言葉を失ってしまいました。割れた窓ガラス、人影もなく、廃墟のよう



に化した診療室。外には変わり果てたチェアが並べられていました。「しばらくの間休業いたします」の張り紙が玄関に貼ってあり、診療室の壁に残された津波の水位がすべてを物語っておりました。裏の自宅にあった転居先の張り紙をたよりに菅原先生にお会いし、直接お見舞いを申し上げることができました。現在、一緒に仕事をしていましたご子息のアパートに仮住まいをされており、もちろん仕事はしておらず、診療所復興にはまだ時間がかかると口重くお話す無精ひげの先生の姿が忘れられません。



菅原先生の診療所の近くの葛正博先生（昭和51年卒）を訪れ、お見舞いをしました。床上浸水とこのことで、手の物差しで10センチくらいの高さを示してくれましたが、実際には形で表されない被害はすごく大きいことが話を聞いていて分かりました。地震のときスタッフは平屋の診療室におり、段々と診療室に水が上がってきて、急ぎ待合室出窓の部分やカウンターの上ののって、恐怖におののきながら状況を見守ったとのことです。先生は裏口近く外にて



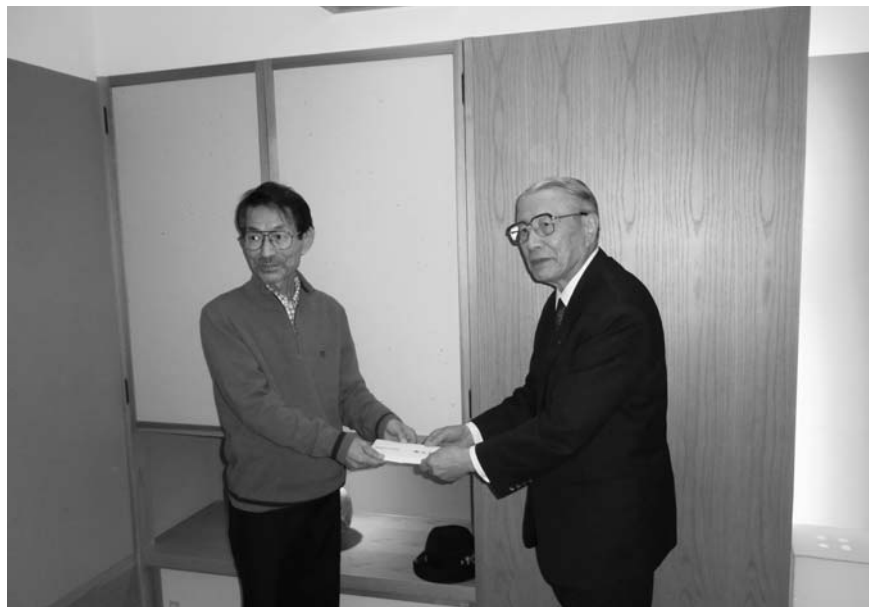
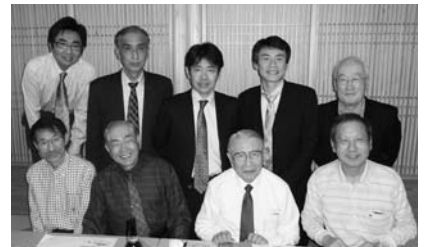
おり、足元までの水がきたあと、あっという間に首近くまで水かさが増してきたそうで、雪の日に冷たい津波に襲われたわけで、さすがに終わりだとも思ったそうです。そして水かさがさらに増したとき体が浮き上がり、そのとき掴まえた2本の木に両手で必死につかまり、面していた裏の駐車場の金網につかまり高いところに逃れ、その後すぐに駆けつけたスタッフのご主人とでスタッフを救出したとのことでした。

昭和48年卒の鈴木一雄先生のご自宅に行ってみました。ご本人は不在で奥様にお見舞いを申し上げました。鈴木先生の診療所は海に近い5階建て、3階に診療室があり2階と3階との間まで水が来たとのことで、周りの建物は壊滅状態でしたが、なんとか建物は残り、その姿が新聞に載ったそうです。当時診療中、お子さん連れもおられ、建物内で待機、津波の怖さをまざまざと見たそうです。奥様によれば気仙沼は三重苦で、地震、津波、そして火事で恐怖の一夜を過ごしたとのことで、いまだ不明者が多く、時間によっては異臭が漂い、町全体が沈みぎみで、復興を期待するものの相当時間がかかるのではと心配されてい

ました。

気仙沼をあとにして石巻に向いました。石巻では、海に近い地域では警官がたって規制をしていて、まだ復旧に至っていないことを感じさせました。まず箕田昌弘先生（昭和36年卒）のお宅に伺いました。先生はご不在で、奥様に今回の被災に対しお見舞いを申し上げました。診療所は海に近いところに位置し、2階に診療室があるそうです。当時先生は診療所にはいませんでしたが、一階部分に外から自動車が2台流れ入り込んでしまい、いまだにそのままの状況だそうです。

続いて鈴木 裕先生（昭和54年

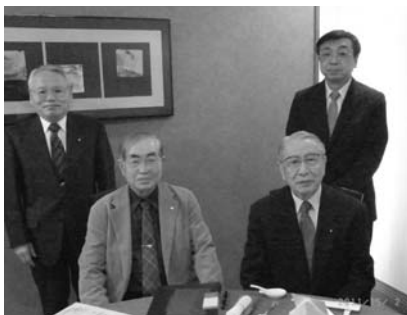


卒)の診療所にお見舞いに行きました。鈴木先生といえば、同窓会ホームページの災害用情報掲示板で昭和54年卒弥生会から石巻鈴木 裕君無事!と3月13日早々にアップされたのを見た方も多いかもかもしれませんが、ご本人も「3日間行方不明になっていました」とおっしゃっていました。床上浸水で、そのまま自宅待機をしていたとのこと。電気水道も途絶え、外との連絡は出来ないうまま、行方不明状態でした。奥様ともどもお元気そうでホット安心しました。

夕刻遅く宮城県支部の先生方と集り、お見舞いを申し上げるとともに、つらい話をうかがいました。

2日目(5月2日)

大山会長、片倉副会長は、仙台9:10発の新幹線で福島に向かい、福島駅前のレンタカーを使って、福島県副支部長の森田欽吾先生(昭和53年卒)の診療室を訪ねました。その周辺は多数の家屋の屋根が「ブルーシート」で覆われており、地震によって瓦屋根がずれたり落ちたりしたための応急処置だと分かりました。昼食に市内在住の中村秀勝先生



(昭和42年卒)も加わり、お二人の話を伺いますと、地震や津波の被害もさることながら、原発による「風評被害」に立腹している点が他の地域とは違った印象を強く感じました。

慌ただしい昼食を済ませて、一路磐越自動車道をいわき市に向かい、いわき駅前の西山令生先生(平9年



卒)を訪ね、先生が地震直後に撮影した写真をパソコン画面で拝見し、凄まじかった地震の猛威を実感させられました。そして、西山先生の案内で佐藤義彦先生(昭45年卒)を訪



ね、その後は自動車市内を移動し、鈴木与志昭先生(昭34年卒)・原 英一先生(昭51年卒)を訪問しました。訪問した4人の先生は、診療室の機械器具の故障・破損や自宅の損壊等幾つかの被害はあったものの、ご家族も含め全員無事で元気に過ごしているとのこと、我々の訪問を大変喜んでくれました。

初日、高橋専務理事は仙台から東京へ帰り、翌日の午後、東京から再度東北へ、大山会長と片倉副会長が訪れている福島で合流しました。福島県支部の先生方との会は、福島駅の近くで開かれました。佐藤福島県支部長より「大山会長が福島にいらしたことは被災地にぽっと光がともったようだ」と感謝の言葉をいただき、大山会長からお見舞いの言葉、そして佐藤支部長にお見舞いがお渡しされました。福島県支部から支部長以下6名が出席され、福島県の実情や願いを聴くことができました。福島の被害の中心は浜通り

で、特徴としては双葉の原発の事故の影響が深く絡み合っているのです。放射線漏洩から20キロの避難地域が設定され、お2人の会員が福島県を離れています。ひとは川崎良輔先生(昭和48年卒)で、福井県に避難されています。もうお一方は清信成一先生(昭和51年卒)で千葉県に避難されています。着の身着のまま避難されているので、所持品も所持金もなく、大変苦労されているようです。もう一つ福島にとっての被害は風評被害です。世界の報道でも「フクシマ」と横文字に変わり困った注目をあびています。福島県支部の先生方からの伝言です。「まず、福島にきてください。福島のものを買ってください。福島のを食べてください」。必ず伝えますとって東京への帰路にたちました。

「がんばれ」ではなく「一緒にがんばろう」と同窓一丸の気持ちが被災地復興への一番の応援になると感じました。(本文は、同窓会ホームページ掲載の東日本大震災被災地のお見舞い訪問記を一部修正要約したものです。)



気仙沼市魚町からの近況報告

鈴木一雄先生（昭和48年卒）は宮城県気仙沼市魚町に診療所を構えています。診療所の裏手は気仙沼湾です。（地図参照）今回の津波はこの魚町に壊滅的な被害をひきおこしました。鈴木先生は昭和48年卒のクラス会であるシチヤ会のメーリングリストに“鈴木一雄近況報告です”のタイトルで、被災時の状況そして町の復旧・復興の様子を継続的に投稿してくれています。ご本人のご了解のもと、会員の皆様へもその状況の一部をお伝えいたします。

3月11日午後2時46分

歯科は港の真ん中にあり海岸から2本目の通りに面しています。震災当日は長い揺れが続いて停電になり市内全域に「津波警報が発令されました」のアナウンスが流れます。津波の高さは10mとのこと。地震の強さと「注意報ではなく警報」でこれは本物だと覚悟し頭の中で4割引いて勝手にここは6mと判断しました。男性患者さん二人は直ぐに引き上げて赤ちゃん連れのお母さんが残りました。4人の職員には車は捨ててここにいれば安全だから動くなと話しました。表の通りは直ぐに車の渋滞になっています。

港全体が「ウォーン」とうなりだし海岸通の木造家屋がバリバリメリメリと壊れ動き出します。係留しているまぐろ船が1隻陸に乗り上げ3隻がアンカーを引きずりながら湾内を動き回ります。潮が引き出すと岸壁から滝のように水が落ち底が見えるぐらいに潮が引きそして第二波がやってきます。これを何度も繰り返すのです。

治療室は3階なので1つ上の4階に移動。停電で暖房が止まっているのでベランダの戸を開けるなど言っても何故か職員は開けたがりません。津波第一波が来て海水が建物に迫ってくると職員は「ここは危ないので逃げましょう」とか「先生私泳げません」と言いたしもっと上に行きましょうと5階に移動。女性陣を外がよく見えない部屋に入れてここを動かすと言って私だけ4階屋上部分で港を見ていました。海岸通の木造家



屋が隣の駐車場を通過して表通りになだれ込んでいます。この建物の浸水は2階までと確認し4階に全員分の布団を用意させ建物中の懐中電灯と携帯ラジオ食料と水飲料物を集めて確認しました。

夕方になり南の港湾口方向で爆発音と煙が吹きあがり日がすっかり落ちた頃に東側海岸線に火が走ります。風は北西なのでここは安全だと職員に説明しても「先生逃げましょう」と言いたし階段を降り出します。津波は何度も繰り返しています。2階の踊り場で下に降りかけている職員にもう一度説明します。外の気温は雪なのでほぼ0度、この中で「足下を濡らしたら山で凍えるから水が引くまでもう少し待て」と。水が引いたのを確認して瓦礫の上を各自懐中電灯で足下を照らしながら脱出しました。

脱出

油とヘドロで濡れた材木は滑りやすく釘も出ていたのですが全員無事

脱出しました。私はリュックを背負い赤ちゃんをしっかり抱っこして山に向かいました。途中旅館があったのですがそのまま階段を上って神社を抜け少し登ると左に東陵高校剣道部の寮があります。ここに小さな物置があったのでこの中に母娘を入れてこの寮の周りをどこか開いていないか調べたところ1カ所建物横のガラス戸が開いていたのです。東陵高校の理事長には後でご挨拶してお許しいただこうと緊急避難ということで中に入り、全員でおこたに入って布団毛布を肩に掛けて一晩過ごしました。外では東と南でドンドンと爆発音と火災による煙が明るく見えます。

被災から何日か経過して

気仙沼は地震→津波→火事と毎日ヘリコプターが飛び回っています。自衛隊は夜明けと共に動き出し6時半には重機のエンジンが鳴り響きます。停電でレジが打てないのでホームセンターは暗い店内に5人ずつ入



震災後の脱出、油とヘドロで滑りやすかった診療所まへの瓦礫の山

れて会計をすませ次の5人を入れています。スーパーは外に1ヶ100円5個までの商品を並べて1人500円の買い物になります。石油は1人10リッターの無料配布ですが2時間40分待ちです。

検死は前日仙台の先生2人1チームでの様子を見て3月22日地元の先生3人で出かけました。長靴の中に靴用ホッカイロを入れています。日中温度6度ですと体育館は暑く感じましたが座ってチャートの清書の夕方は書く手が寒くなり閉口しました。打ち合わせしたわけでは無かったのですが3人共LEDのヘッドライトでした。私は映像が趣味なので口角鉤とカメラも持参しました。せめて前歯部だけでも撮影しておけばご遺族、地元歯科医の役に立つと思ったからです。

地震3日目に燃費の良い50ccバイクを買いに行ったら店主曰く「市の登録業務が出来ないし自賠責保険の手続きも出来ないので売たくても売れない」とのこと中古バイクは2日目に全部売れたとのこと。被災地にある新品のバイクが使えないという笑えないお話です。

暗い話はこのぐらいにして本当にたくさんの方から励ましの連絡をいただきました感謝しています。被災地の避難所で隠れた必需品は子ども達の癒しになる画用紙とクレヨンそして本です 近くの被災地に送られ

ると喜ばれると思います。

1カ月経過しました

治療室のある魚町はやつとのこと4月17日前道路上の瓦礫は撤去されました。しかし電信柱は無くなり、海岸線は地盤沈下が76cmで水道管は本管が何か所かで切れているそうなので電気水道の復旧は当分ありません。と言うわけで発電機と配電盤そして大型の水タンクを手配しました。コンプレッサーはホームセンターで購入したオイルレスの30ℓタンクをつなぎました、これはうるさいのでホースは20メートルにして1階下に置きました。来週には治療室はトイレ共に通常使用を目指しているところです。午前中は治療室にいますが電話線もダウンしているので携帯電話がたよりです。3月11日に中断していた患者さんは住所を確認してから連絡していますが、開いている玄関を見て入ってくるのは行方不明者の歯式とレントゲン写真を求める肉親です。毎日1人は来ます、PCで歯式を作りレントゲンをコピーして私が遺体安置所の鑑識さんに渡すことを約束しますが自分が持っているという肉親もいます。

気仙沼市は市内から大川を渡る橋付近が何時でも渋滞していました。この橋の市内側で大勢の被害者が発見されます。毎日運ばれてくるご遺体の半分はここからです。17日に17

体、18日に10体と県内で2日連続トップと安置所の掲示板に記載されています。たいがいな事にはめげないつもりでしたが昨日最後のご遺体にはすっかり気持ちが萎えてしまいました。1晩寝て70パーセントぐらい戻り、職員の顔を見て+10パーセントぐらい戻りました。今日又出会ったら平尾くんの回し蹴りを後頭部にあびたぐらいのダメージになりそうな気持ちでした。

三陸沿岸で24時間働いている現場の若い自衛官、警察官そして海上保安官そして皆様方のご支援に感謝しています。ありがとうございます。

それから2カ月が経ちました

5月30日魚町の歯科医院に東北電力から電気が来ました。高圧線の電信柱は2週間ぐらい前に立ったのですが低圧送電は後1ヶ月くらいかかると言われていましたが、我が家の前の電信柱にトランスを付けて通電OKとのこと、水道も昨日電話があり本管接続OKとのこと。よかった～ホッとしています。今日から水と軽油運びから解放され発電機の振動と排気ガスの臭いから解放されました。

なだしお事件で「第一富士丸」を引き上げた「深田サルベージ」が気仙沼で600トンのまぐろ船を陸上から海に戻しに来ました。魚町1区の住宅地の瓦礫撤去が始まりました。5月14日に遺体捜索の自衛隊九州大分部隊が気仙沼を引き上げました。という訳で民間瓦礫撤去中にご遺体の発見があるのです。特に火災にあった地区からのご遺体ですので、瓦礫撤去のアルバイトが1日で止めるのもわかります。

私は自宅前の畑を一部農地転換しました、ここに地震保険の範囲内で歯科医院を年内に開業します、年齢的には微妙な歳ですが職員に「子供を育てなくてはいけないので後10年頑張ってください」と言われました。私には予定外の事態になりました

たが畑仕事と平行してやろうかな〜と納得しています。ちなみに気仙沼歯科医師会33件の歯科事情は死亡2名、行方不明1名、死亡外廃業5件、再建不明6件、再建途上1件。無傷で通電通水次第復帰できたのは9件で残り9件はそれなりの津波被害を受けましたが現在復帰しています。

気仙沼の異臭

気仙沼の異臭は受け入れなければこの地には住めません。諦めています。自宅では東と南からの風が異臭を運んできます。魚町は町全体が臭っています。大量の有機物が腐敗しているのですからこの夏は最悪だと覚悟しています。

最大の原因は海底から陸上に運ばれたヘドロと冷凍工場から市内全域にばらまかれた魚です。細かいことを言えば各家庭の冷蔵庫食料、逃げ遅れた生物全般です。

被災地の肺炎の罹患率は平年の3〜4倍と報道されています。津波の写真を見て水の色が黒いのに気がつかれた方もいると思います。公共下水道が整備されても人が住む水域には下水を通して湾内に大量の有機物が流れ込み真っ黒なヘドロと化します。

復旧・復興の見通し立たず

気仙沼の生産拠点は全て建築制限区域で地区全体が地盤沈下していて冠水したままの被災建造物の撤去も手つかずで復旧・復興の見通しは立っていません。



皆を困らせる大きな蝇



タイヤが自由自在でムカデのような車で海に帰る秋刀魚船

地盤沈下した土地の嵩上げは被災地域の地図を見ればとんでも無い量の土木工事が必要でその予算をこの国は賄えるのでしょうか。

カツオの水揚げはニュースにはなっても現実には厳しい物があります。

今気仙沼で困っていることの一つにハエの問題があります、でかいハエが大量に発生しいたるところを飛んでいます。このハエの集団に出会うと重低音のブーンという音にギョッとします。又走っている車のフロントガラスにコンコン当たります。と言う訳で市内ではペットボトルにお酒、酢、蜂蜜等々を混ぜた怪しげな液体を入れてあちこちにぶら

下げています。

気仙沼でハエ捕りリボンは売れ行き商品です

東菌関係者皆様の度々のご支援に感謝しています。

私は全国そして海外の皆さんの優しさに感激しています。遺体安置所で見た「東京消防庁のガウン」はこれを着ていたのは地元のお巡りさん。隣の壊れた土蔵を重機で解体撤去していたのはボランティア岐阜県森林組合の皆さん。仮設住宅用地の交渉係車両が三河ナンバーとか数え上げれば切りがありませんありがとうございました。（鈴木一雄 記）



潮位が120センチを超えると海岸道路は水の中
(右から2番目のビルが鈴木歯科)



気仙沼線の高架橋上家屋残骸

卒研レポート2011

『攻めの TBI とフッ化物の応用』 ～治療を目的とした、知って得するテクニック～

13階セミナー室

これまでは血脇ホールで行っていたセミナーでしたが、今年から東京歯科大学水道橋校舎の13階のセミナー室が使われています。東京ドームシティアトラクションズの、地上60mの間で上昇・降下をくり返すパラシュートのついたゴンドラに乗



るアトラクション「スカイフラワー」も高く思えない13階の会場です。

ピカピカの受講生

13階のセミナー室に入って驚いたのはどう見ても卒業したてのまさにピカピカの歯医者さんだろうと思える受講生でいっぱいでした。まだ何を言ってもゴシゴシ磨いてしまう患者さんや次の定期検診では「あんなに説明したのに…」という歯ブラシ指導の辛酸を味わっていないまだ無垢の世代であろうと思われました。

講演内容

講師は高柳篤史（埼玉県・開業）、三上直一郎（東京都・開業）、山本龍生（神歯大・社会歯科）、山岸 敦（花王・パーソナルヘルスケア研究所）でした。

まず高柳先生の「攻めの TBI とは」という、TBI の戦略の立て方「考える TBI」の講義がありまし

た。「疾患」、「患者」、「道具と薬剤」、「方法」を知った上で、患者さんに負荷をかけないように考えた TBI が攻めの TBI ということでした。またこのセミナーでは三つの視点から行われ、効率的な歯垢除去を三上先生、つまようじ法による歯肉マッサージは山本先生が、フッ化物のドラッグデリバリーについては山岸先生が行うということでした。

高柳先生の概論を受け、その各論として歯肉の細胞増殖活性を促すという「つまようじ法」について、その理論と実際が山本先生から説明がありました。つまようじ法の実習もあり、つまようじ法用の歯ブラシ(V7)が受講生に配布され、実際に山本先生に歯に歯ブラシをあててもらいやり方の説明を受けていました。



三上先生からは「毛先みがきの理論と実際」と題して講義と実習がありました。染め出しで欠点をあげつらうより、自信を持ってもらう指導を行うべきであり、長続きする、簡単に気持ちいい歯ブラシを続けてもらうことであるといひます。また毛先みがきとは「プラークを効率よくみがき落とせる磨き方」であり、毛が曲らない力で毛を歯面に垂直にあてるようにする方法ということでした。歯ブラシのあて方の実習では B



の鉛筆で前歯に円や線を書きこれを歯ブラシ（プロスペック）で落とす実習を行っていました。

この他に高柳先生による「ブラッシング用具の特徴と選択」や山岸先生による「フッ化物の理論と臨床」がありました。山岸先生の講義では歯の再石灰化より耐酸性が重要であり、歯の表面のみに効果のある NaF とゆっくり奥深くまで影響する MFP の違いなど興味あるものでした。

卒研セミナーでは今後のセミナーを考える上で受講生を対象にアンケート調査を行っていますが、今回の結果をみると概して判り易く好評であったようです。

（取材・広報部 三友和夫）

卒研レポート2011

TDC インプラントセミナー

マスターコースNo.1

卒研セミナーでは、いままで臨床導入前や導入間もない方を対象に2日間コースのセミナーを開催してきましたが、この度年間全10日間に及ぶマスターコースが開催されましたので5、6月の4日間の取材に行ってきました。講師には、口腔インプラントのエキスパートとこれに関係する専門家としてご活躍の、東京歯科大学教授、准教授で構成されていて、マスターコースに相応しい日本のインプラント治療を代表するトップクラスの講師陣が連日入れ替わりで講演、実習していただける内容になっています。



第1日目スタート

5月14日（土）の初日は開校式に続き、咬合崩壊に至るコースを事前に把握しそれに適した補綴をするという宮地先生による「欠損歯列の考

え方」のご講演に始まり、武田先生の「欠損補綴におけるインプラントの役割」のご講演でした。午後の講演の吉成先生による「インプラント材料と表面構造」では、HAコーティングインプラントの信頼性の低い理由はHAコーティングの膜が現在ではまだ厚く剥がれやすい事によるもので、HAが悪い訳ではないということでした。インプラントメーカー主催の講演では都合の良い事ばかりしか聞けません、このセミナーでは次にご講演された井上先生の「インプラントのための臨床病理・病態」と合わせて基礎的な非常



にためになるご講演を聞くことができました。

初日の講習終了後に講師、受講生、学術委員などスタッフとともに集合写真、オープニングパーティー

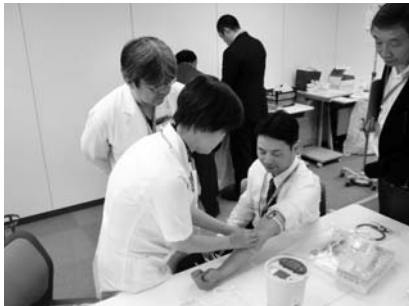
も開かれ普段近寄りやすい講師の先生方にも気軽に話せる機会が設けられ、受講生全員の自己紹介もあり終始和やかな初日スタートになりました。

2日目は基礎実習がありました

翌日は阿部先生の「臨床解剖学」講義と解剖見学実習、午後には一戸先生による「局所麻酔とモニタリング」講義、静脈確保実習でした。

インプラント材料や臨床技術は日進月歩の向上をみせていますが、成功させるためにはこれまで以上に詳細な解剖学的知識や偶発症が起こったときの冷静な対処の仕方が必要になります。用意された詳しいテキストに加え、大学卒業後には触れることがない献体による解剖見学実習と、受講生相互による静脈確保実習はこのマスターコースならではの実





習です。

3日目からは手術に沿って

6月の初日(3日目)は、矢島先生による「外科主義の基本、埋入時の医療事故と対応」の講義です。

炎症総論から始まり、切開線の設定や弁剥離、縫合、滅菌と基本的な外科手技のおさらいをしてトラブル症例の紹介とその対応法を学びました。特に舌下動脈損傷による出血と圧迫手順については死亡事故の例に触れ、受講生はみな真剣な眼差しで聞いていました。

続いて井上先生による「インプラントのための臨床検査の応用」、松坂先生による「インプラントのスタンダードプリコーション」のご講演でした。インプラントは根拠をもって診断・治療・予後判定を行うことが大事で、適応症を見極めるためには臨床検査をしっかりと行ってくださいということでした。

午前の部後半は椎貝先生による「CTデータの臨床応用、既存骨を利用した埋入法」のご講演でした。

従来のCTの利点・欠点、シュミレーションソフトの有効性、サー



ジガイドの活用、骨幅が狭い症例の既存骨を利用した埋入方法など臨床に即した内容でした。

4日目はよいよ埋入実習

小宮山先生による「補綴設計と埋入計画の立て方、ボーンレベルインプラントの特徴」の講演では、日本におけるインプラントの第一人者の講演とあって、ブローネマルク先生のお話も交えて丁寧に判りやすく、且つ非常に高度なレベルのお話まで聞くことができました。



4日目午後はブロック模型や顎模型のドリリング実習から始まりました。フラット面やエッジ面の基本的な形成から、エンジンの持ち方、埋入窩形成の手順を学びました。

ブローネマルクインプラント埋入実習では2人でペアを組んで写真の

ような頬粘膜付の顎模型を実際の患者さんがいるように行いました。

サージカルガイドの装着、骨膜剥離、ドリリングとステップごとにインストラクターがきめ細かに指導していただけるので安心して実習することができるようになっています。

最後は印象用コーピングを付け、オープントレーによる印象採得まで行い4日目が終了しました。

初めて開催されたマスターコースでしたが、基礎的な事から高度な内容まで網羅し、臨床に即したノウハウを惜しみなく披露していただいた先生方、そして周到な準備をして下さった学術委員のご尽力があってこそ開催できたセミナーと思われました。(取材・広報部 福井雅之)



卒研レポート2011

「義歯の設計を考える」

～診るポイントとは～

平成23年6月26日(日)、本年度卒研セミナーの第3弾「義歯の設計を考える」が水道橋校舎13階セミナー室で開催された。

本セミナーは義歯の設計を行うにあたり、どこの、何をみて、どのように設計したら良いかを習得するために、主として臨床経験の浅い若手向けに企画された。特に今回は「ディスカッションセミナー」と銘打たれ、講演を交えながらチュートリアル方式のディスカッションをしながら学ぶという「考えること」が主体のセミナーであった。

午前中はまず関根秀志講師による「義歯設計のファンダメンタル」と題して、義歯の基礎的な諸条件について講演があった。

休憩のあと具体的な欠損症例が提示され、受講生は義歯の設計を自分なりに考え、各自模式図に書き込んだ。その後5～6人のグループに分かれ、提示された症例についてグループディスカッションを行った。ディスカッションは若手の学術部委員がチューターとなり、自分はどのような考えでこの設計をしたか等を発表した。ディスカッションのあと、関根講師から「まず皆さんは義歯の絵が描けていない。構成要素が全て描けていないのは勿論、義歯床外形、人工歯、連結装置、支台装置、フィニッシュライン等々が書けていない。これでは技工指示書も満



足に書けないのではないかと辛口の評があった。

昼食を挟んで、宮地建夫講師による「欠損歯列の読み方」と題する講演が行われた。

宮地先生は「義歯の設計をするには欠損歯列を読むことが大切であり、連続した欠損歯列の病態において、目の前の症例が今どのレベルなのか認識することが欠損歯列の病態把握には最も必要である」と述べられた。さらに「欠損歯列を評価するためには、現存歯数、咬合支持、受圧条件、加圧因子、欠損のパターン、という要素を詳細に検討しなければならない」と力説された。

その後田口達夫講師が義歯の設計に悩んだ症例を呈示し、この症例の問題点を加藤賢祐学術部委員が受講生にインタビューした。そして受講生全員で病態を把握したあと、再びこの症例についてグループディスカッションを行った。

慣れないディスカッションに午前中は声の出にくかった受講生たちも、午後になるとチューターが比較的年齢が近かったためか、活発に意



見が出始めた。さらには今、講演で聞いたばかりの「受圧」、「加圧」などという言葉がスラスラ口から出るようになった。受講生たちは、他の受講生の設計とその根拠を討論するうち、一口腔単位としての見方が学びとれ、症例の分析、診断能力が大いに身についたものと思われた。

最後にまとめとして、藤関雅嗣講師による「長期経過症例から見えること」と題する講演が行われた。藤関先生は、豊富な長期観察症例を提示され、難易度のスクリーニングをするには、「Eichner分類」、「宮地の咬合三角」が、症例の特徴の把握には、「受圧条件」、「加圧因子」、「顎堤の条件」、「残存歯の状態」が重要であると述べられた。そして、タイミング良く宮地先生の新刊が上梓されたので、それを熟読して、欠損歯列と義歯の設計に対する理解を深めてもらいたいと結ばれた。

卒研の熱意溢れた本セミナーは受講生にとって大きな糧となるものであった。(取材・広報部 渡邊宇一)



保 険

初心に戻って開示に耐えうるカルテの書き方

最近、明細のわかる領収書の義務化、患者さんの要望によるカルテの開示の義務化等、カルテを診療スタッフ以外の人が見る機会が増えました。カルテは誰が見ても診療の内容等がわかることが要求されます。あなたのカルテは大丈夫ですか？

初心に戻って、再度カルテの書き方を復習してみましょう。

患者さんが、いらっしゃいました。まず1号カルテを作ります。

歯 科 診 療 録

No. _____

公費負担者番号		公費負担医療の受給者番号		保険者番号		記号・番号		有効期限	
受診者		被保険者氏名		資格取得		所在地		電話	
氏名		生年月日		所在地		電話		電話	
住所		職業		被保険者との続柄		所在地		電話	
職業		被保険者との続柄		所在地		電話		電話	

部位	傷病名	職務	開始日	終了日	転帰
上7					
上5					
上6					
上7					
上8					
上9					
上10					
上11					
上12					
上13					
上14					
上15					
上16					
上17					
上18					
上19					
上20					
上21					
上22					
上23					
上24					
上25					
上26					
上27					
上28					
上29					
上30					
上31					
上32					
上33					
上34					
上35					
上36					
上37					
上38					
上39					
上40					
上41					
上42					
上43					
上44					
上45					
上46					
上47					
上48					
上49					
上50					
上51					
上52					
上53					
上54					
上55					
上56					
上57					
上58					
上59					
上60					
上61					
上62					
上63					
上64					
上65					
上66					
上67					
上68					
上69					
上70					
上71					
上72					
上73					
上74					
上75					
上76					
上77					
上78					
上79					
上80					
上81					
上82					
上83					
上84					
上85					
上86					
上87					
上88					
上89					
上90					
上91					
上92					
上93					
上94					
上95					
上96					
上97					
上98					
上99					
上100					

- 1) 同一患者さんのカルテは最初の初診以来、一冊にまとめておきましょう。
- 2) 事務的事項の書き漏れはありませんか？保険証のコピーは原則認められていません。
- 3) 主訴は何ですか？「主訴」欄に、患者さんの言葉で書いてください。
- 4) 患者さんの口腔内の状態はどうですか？歯牙配列図に、口腔内全体の概況を記載してください。正しい略称を使用してください。In→CK 絵を併用するとわかりやすいです。歯管の用紙と同等の記録
- 5) 診断がつかしましたか？主訴の部位より順番に、部位・傷病名欄に記載してください。度数がある物は度数も記載、C2・P3等、Per・Pul 病名は慢化・急化等、それぞれに、診療開始日と終了日を記載してください。

- 鉛筆書きは出来ません。インクか、ボールペン書きで。
- 修正液・修正ペンの使用は出来ません。以前の記載内容がわかるように2重線で消す。
- 第三者が読めるような字で記載。
- 病名等自己流ルールは通じません。

※自由診療分はカルテを分けます

部 位	傷 病 名	職 務	開 始 日	終 了 日	転 帰
上7	P1	上	23年	23年	治癒
5		外	4月1日	6月9日	癒
	P2	上	23年	23年	治癒
67		外	4月1日	6月9日	癒
45	C2	上	23年	23年	治癒
54		外	4月1日	5月6日	癒
35	C3 慢化 Per	上	23年	23年	治癒
32		外	4月22日	6月2日	癒

保険請求だけのカルテになっていませんか？

S. O. A. P. に沿ったカルテ記載の勧め

- S** (subjective) 主観的事項：患者の訴え・自覚症状
しみる・治療後に痛みがでた・痛みがひいてきた
- O** (objective) 客観的事項：視診・触診・打診など検査・所見
発赤、腫脹、排膿が認められる・動揺2度・打診痛+
- A** (assessment) 考察：病状・治療効果・原因などの評価
痛みがひどくなり、開口障害も悪化、抗菌薬を変更する
- P** (plan/Practice) 計画／実行：今後の検査や治療などの計画／実際行った診療行為
症状も落ち着き、次回歯周組織検査を行う予定／咬合調整、切開排膿

S. O. A. P. にそって、カルテを記載して行けば、記載漏れもなく、第三者が見たときも治療の必要性、正当性がはっきりわかる。また、自分の診断・診療内容の見直しにもなり、見落とし等が防げます。

カルテ記載形式上の注意点

- ① カルテ記載は、診療の都度、遅滞なく記載することが原則です。その日の診療はその日の内に記載
- ② 手書きの場合は、黒字または青字でインク、ボールペンを使用、後日消去または修正可能という意味で鉛筆書きは禁止されています。第三者に読めるような字で記載
- ③ むやみに行間があいたカルテは記載義務の怠慢や、追筆、加算予定が疑われます
- ④ 一行二段書き、三段書き、欄外記載は、追筆（後書き）の疑いを受けます
- ⑤ 塗りつぶし、修正テープによる訂正は行わない。原文を残すように、正しくは二重線で消去し訂正する。露骨な修正などは慎むべきです
- ⑥ 複数の歯科医師、またはワープロなどOA機器による作成したカルテには、担当保険医の署名または押印が必要です

診療内容記載上の注意点

- ① 点数算定の有無に関わらず、診療内容は診療手順に沿って記載しましょう
- ② 検査・レントゲン等は、結果・所見等を記載しましょう
- ③ 歯科疾患管理・補綴物維持管理など、提供用紙が必要なものは、控えをカルテに添付しましょう
- ④ 充形・修形において、形成窩洞面（MODBL）を記載しましょう
- ⑤ 除去において、除去物の種類を記載しましょう
- ⑥ 麻酔において、麻酔種類（浸麻・伝麻）・部位・使用薬剤・使用量等を記載しましょう
- ⑦ 手術・処置において、部位・術式・症状経過等を記載しましょう
- ⑧ 衛生実地指導では、歯科衛生士に指示した内容を記載しましょう

※衛生実地指導は、歯科衛生士業務記録の記載が必要です。

母校だより

東京歯科大学学長の選任

東京歯科大学学長：井出吉信教授

学長の選任については、6月14日開催の第586回講座主任教授会並びに同日開催の第587回全体教授会において、新学長の選任が審議され、井出吉信教授が推薦された。全体教授会の推薦を受けて、平成23年6月21日開催の第672回理事会並びに第227回評議員会にて井出吉信教授が7月1日からの新学長に選任された。

平成23年7月1日からの法人役員新体制

金子 讓 理事長（総括）

井出 吉信 常務理事（学務・建設・人事担当）

熱田俊之助 常務理事（校友担当）

石井 拓男 常務理事（財務・庶務担当）

鹿島 隆雄 理事 水野 嘉夫 理事 安藤 暢敏 理事 野崎 弘 理事

柳澤 孝彰 理事 大山 萬夫 監事 松尾 邦弘 監事

クラス会（77期会：昭和47年卒業）より大学へのご寄付

昭和47年卒業のクラス会（77期会）一同より、クラス会名に因み大学へ77万円が寄付された。平成23年6月11日（土）、クラス会会場において、77期会会長の市川 豊先生から目録が同期である井出副学長に手渡

された。

77期会からは、「今回の寄付は、大学移転事業が本格化し、いよいよゴールが視野に入り、今まさに母校が飛躍しようというとき、その伝統

の継承とさらなる発展を願うものであり、幸運の数が並ぶ77期会からの応援のメッセージと受け取って頂ければ。」とのお話をいただき、和やかなうちに贈呈式が執り行われた。



井出副学長へクラス会（昭和47年卒業：77期会）より寄付金を手渡す市川 豊 77期会会長



平成23年6月11日（土）、東京ドームホテル・シリウスの間
77期会クラス会会場

平成24年度東京歯科大学入学案内 (東京歯科大学入試要項より)

1. 入試日程一覧 (全募集人員128名：編入学除く)

入試制度	募集人員	出願期間 (期間内必着)	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学	約45名	平成23年11月1日 ～ 平成23年11月8日	平成23年 11月12日	平成23年 11月15日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎 大阪会場： 天満研修センター 福岡会場： TKP 天神シティセンター
帰国子女・ 留学生特別選抜	若干名				
編入学 A	若干名				
学士等特別選抜 A	若干名				東京歯科大学水道橋校舎
一般入試 (I期)	約50名	平成23年12月16日 ～ 平成24年1月27日	平成24年 2月2日	平成24年 2月4日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎 大阪会場： 天満研修センター 福岡会場： TKP 天神シティセンター
大学入試センター利用 試験 (I期)	13名				
一般入試 (II期)	約15名	平成24年2月21日 ～ 平成24年3月6日	平成24年 3月10日	平成24年 3月13日	東京歯科大学水道橋校舎
大学入試センター利用 試験 (II期)	5名				
編入学 B	若干名				
学士等特別選抜 B	若干名				

※編入学 A・B は、2年次に編入学

2. 出願資格

推薦入学 (一般公募制)

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任を持って推薦する者。

1. 平成23年3月高等学校卒業者または平成24年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

帰国子女・留学生特別選抜

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成24年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成24年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成24年3月31日までに18歳に達する者。

編入学 A・B, 学士等特別選抜 A・B 共通

次のいずれかを満たす者とする。

- ① 4年制大学卒業生または平成24年3月卒業見込の者。
- ② 医療技術系短期大学を卒業した者または平成24年3月卒業見込の者。
※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③ 4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者。
※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

3. 試験内容

入試制度	選考内容・試験内容
推薦入学（一般公募制）	(1) 小論文 (2) 小テスト [外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目を選択）] (3) 面接
帰国子女・ 留学生特別選抜	(1) I期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学 ③ 理科（物理・化学・生物から1科目を選択） II期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択
一般入試（I期）	(2) 小論文 (3) 面接
一般入試（II期）	(1) 大学入試センター試験の受験科目 外国語 「英語（リスニングを除く）」 数 学 「数学Ⅰ・数学A」, 「数学Ⅱ・数学B」の2科目 理 科 「物理Ⅰ」, 「化学Ⅰ」, 「生物Ⅰ」から1科目
大学入試センター利用試験（I期）	(2) 小論文 (3) 面接
大学入試センター利用試験（II期）	(1) 小論文・小テスト（英語等の基礎学力に関する総合的試験） (2) 面接（グループ面接・個人面接）
編入学 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（グループ面接・個人面接）
編入学 B	(1) 小論文・小テスト（英語等の基礎学力に関する総合的試験） (2) 面接（個人面接）
学士等特別選抜 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（個人面接）
学士等特別選抜 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（個人面接）

※1 一般入試（I期、II期）学力試験出題範囲

外国語 英語：英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。

数 学 数学：数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B。なお、数Bは「数列」と「ベクトル」を出題範囲とする。

理 科 物理：物Ⅰ、物Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された物理Ⅱのうち以下のものを除く。

〔(3)物質と原子〕の「イ 原子、電子と物質の性質」、〔(4)原子と原子核〕

化学：化Ⅰ、化Ⅱ

生物：生Ⅰ、生Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された生物Ⅱのうち以下のものを除く。

〔(3)生物の集団〕

4. 学納金（全入試制度共通）

入学金	600,000円（入学時のみ）
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円（入学時のみ）
施設維持費	1,000,000円
合計	9,400,000円

— 受験科目詳細・入学手続きその他詳細は [入試要項] をご覧下さい —

（入試要項は、大学教務課に資料請求して下さい。web サイトからも請求可能

<http://www.tdc.ac.jp/college/applicants/index.html>）

父兄会だより

父兄会長就任の挨拶



新会長 鳩 貝 尚 志

はじめに東日本大震災並びに福島原子力発電所事故により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます、と共に一日も早い復興をお祈り致します。また、この緊急時に素早い対応と支援活動を展開しております同窓会の皆様に感謝と敬意を表します。

私は、鈴木前会長を引き継ぎ第65代父兄会会長に就任致しました鳩貝尚志（はとがいひさし）と申します。この伝統と実績のある会の長として、その重責に身の引き締まる思いであります。

当会は、大学と家庭との連絡を密にし在学生の修学に万全を期する為に必要な事柄を行うことを目的とし、役員一同・関係者と手を携えて、時代の要請に沿った改善改革を進めながら事業を行っています。

6月に開催された定時総会から2つご報告致します。1つは父兄会貸与共済基金の債権・債務を含めた全ての業務を大学に移管することが議決された事です。これは、近年予定通りの返済ができない方の増加、返

済不履行者への裁判手続きを行った事例の発生等により、現在の父兄会組織では対応不可能と判断された為です。その上で、この事業は開始から53年間で数百名の修学継続に寄与していますので、今後も支援の実質は変わらぬよう進めてまいります。

もう1つは、傷害共済基金緊急災害対策準備金から被災した大学へ支援金3,000万円を贈呈することが議決された事です。これは、父兄会には緊急災害に備えて、傷害共済基金の中に「緊急災害対策準備金」として積み立てている資金がありますので、このような未曾有の大震災の時にこそ、規程の目的に沿って、学生の安全を第一に考えた修学環境作り対策・施設修繕等に有効利用して頂きたいとの父兄会の総意であります。

これからも学生全員が充実した生活を送り、卒業し、歯科医師国家試験に合格するという当然の願いが叶うよう支援活動を続けて参りますので、同窓の皆様には更なるご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

父兄会長退任の挨拶



前会長 鈴 木 千 枝 子

父兄会長退任の挨拶に先立ち、3月11日の東日本大震災で被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。同窓会では、対策本部の設置や支援金の協力などいち早い対応がなされたことに敬意を表する次第です。今後、長期間の支援が必要となりますが、一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

父兄会では6月18日に平成23年度定時総会が開催され、昨年度の収支決算報告等の承認を得て、私の一年間の父兄会長の大役を終えることができました。父兄会はじめ大学教職員関係者の方々のご指導、ご援助のお陰と心より御礼申し上げます。

ご存知のとおり、平成22年度は東京歯科大学創立120周年の記念事業が執り行われ、成功裏に終わりました。学生にとってこれらの事業に参加したことは、大学の歴史を肌で感じることができ、これからの大きな

財産になったことと思います。同窓会の皆様からは多くのご支援をいただき、改めて感謝申し上げます。

平成23年度の新会長に就任された鳩貝会長は、今回の大震災で千葉校舎の一部に被害が見られた際に、新学期からの学生生活に支障がないよう、理事会に諮り速やかに対応されたとのことでした。大震災や福島第一原発の事故は今まで経験したことのない事態で戸惑うことが多くありますが、このような時にこそ同窓生と在校生との「絆」を強く結ぶ必要があるように思います。

来年度は水道橋校舎での新入生の受け入れが始まる予定でございます。今後の父兄会事業は変化していく中にも先を見据えた柔軟な対応が求められて参ります。同窓会の皆様方にはなお一層ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。

平成23年度		理事	石井俊昭	群馬	馬	築瀬一彦
東京歯科大学父兄会役員名簿		〃	福田紳一	埼玉	玉	小谷隆一
会長	鳩貝尚志	〃	中川雅晴	新潟	潟	佐藤徹
副会長	佐藤浩一	〃	石和久	富山・石川・福井		山田雅敏
〃	荒川幸雄	〃	松崎英雄	山梨		矢崎篤
〃	秋草正美	〃	小林容子	長野・岐阜		黒岩茂
常務理事(庶務)	小林一公	〃	原島晃	静岡	岡	喜田賢司
〃	寺本信三	〃	丹沢朝彦	愛知		青木宏道
常務理事(会計)	齋藤守	〃	村上雅一	三重・和歌山		大矢孝臣
〃	小山亨	〃	瀧上恵美子	滋賀・大阪・京都・兵庫・奈良		
常務理事(貸与)	中村隆	〃	相浦勇二			北村真也
常務理事(傷害)	森田正純	監事	東郷幹夫	岡山・広島・山口・鳥取・島根		
常務理事(広報)	宮吉久美	〃	鈴木千枝子			柏村真
〃	齋藤正			徳島・香川・高知・愛媛		
〃	川崎輝子	父兄会協力委員一覧				川上清一
〃	橋本東兎	北海道	市之川正孝	福岡・佐賀・長崎・熊本		
理事	山本明彦	青森・秋田・山形	菊地敦子			中西久人
〃	荻原俊美	岩手・宮城・福島	鈴木隆	大分・宮崎		田中千明
〃	高崎一郎	茨城	重藤一良	鹿児島・沖縄		前山泰代
〃	坂入道子	栃木	柳川敏夫			

一口メモ

平均中央値は神のお告げじゃない

—進化学者が不治の癌から生還—

The Median Isn't the Message by Stephen Jay Gould

古生物に興味ある方ならば「ワンダフルライフ—バージェス頁岩(けつがん)と生物の進化の物語」という、カンブリア紀の奇妙な化石動物群をめぐるアメリカのベストセラーの本を知っている方もいらっしゃるでしょう。その著者がスティーブン・ジェイ・グールドです。

今から30年ほど前グールドは40歳を過ぎて中胚葉性上皮腫(mesothelioma)に侵されました。図書館のコンピュータ文献検索を行い読んでみたところ、15分ほど呆然自失してしまったそうです。文献には「mesotheliomaは不治の癌であり、死亡までの中央値は癌発見後8カ月である。」と……。

「平均中央値は神のお告げじゃ

ない」という短い文章は2年間のこの病気の治療後に書かれたものです。この文章は今でも癌にかかった人に読んでもらいたい一編とされています。インターネットでこの題名を検索すると簡単にみつかります。

この中で「死期の中央値8カ月」は普通には「わたしは8カ月以内に死ぬだろう。」と解釈するでしょう。しかしこれが間違っているというのです。平均値、中央値という抽象概念では個人個人の状況が捉えられません。つまりグールドが長く生きられる可能性があるのか?これを冷静に考えた時、若年であること、比較的早期発見であったこと、生きる世界を持っていること、絶望していないことなど個人の具体性を考えた

時、まだ長く生きられるはずと考えたのです。(詳しくはインターネットで)

「死期の中央値8カ月」という抽象的に捉えられた中には、グールドの現実はありませんでした。グールドはそれから約20年後別の病気で亡くなっています。

このことは意外に深い意味を持っていると考えます。EBMを振りかざしているだけでは、また保険診療のガイドラインのとおり治療をおこなっても、それから外れる人がいることを肝に銘じるべきです。決まりだからと機械的に治療するようにはなりたくないものです。グールドがしたように個人の具体性を考えられる歯科医になりたいものです。

支部のうごき

掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成23年 9月17日(土)	「歯周組織を捉えるミクロの目」 橋本貞充准教授 (東歯大生物学研究室)	米子全日空ホテル 米子市久米町53-2 TEL 0859-36-1111	鳥取県支部 連絡先 担当・田本 晃 TEL 0859-27-4667	歯科関係
学術研修会 平成23年 10月18日(火) 午後7時	「高齢者、有病者の外科処置において留意すべき点」 吉澤信夫名誉教授 (山形大学)	東武ホテルレバント東京 墨田区錦糸1-2-2 TEL 03-5611-5511	城東支部・深川支部 連絡先 担当・城東支部 久保秀二 TEL 03-5626-2692	同窓会員
合同学術講演会 平成23年 10月21日(金) 午後7時	「臨床に役立つ機能解剖学-総義歯からインプラントまで-」 阿部伸一教授 (東歯大解剖学講座)	京橋プラザ2階 第一会議室 中央区銀座1-25-3	京橋支部・日本橋支部 連絡先 担当・京橋支部 五百住守彦 TEL 03-3561-2469	支部会員
学術講演会 平成23年 10月29日(土) 午後6時~7時	「小児の外傷の対処について」 久保周平講師 (東歯大口腔健康臨床学講座 小児歯科学分野)	GIA 多摩連合会会議室 立川市錦町2-1-1 タウンコート立川 TEL 042-524-3203	北多摩支部 連絡先 支部長・中山友春 TEL 042-572-0249	支部会員 同窓会員 歯科関係者
学術講演会 平成23年 11月18日(金) 午後7時	「小児歯科の最近の話題」 新谷誠康教授 (東歯大小児歯科学講座)	板橋区歯科医師会館 3階ホール 板橋区常盤台3-3-3 TEL 03-3969-6421	板橋支部 連絡先 担当・須田 希 TEL 03-3936-9960	支部会員 同窓会員 歯科関係 一般も可
学術講演会 平成23年 11月27日(日)	「歯肉と口腔粘膜をみる ~歯肉・口腔粘膜上皮の立体構造と防御機構/炎症と腫瘍の間に...~」 橋本貞充准教授 (東歯大生物学研究室)	名鉄ニューグランドホテル 名古屋市中村区椿町6-9 TEL 052-452-5511	愛知県同窓会 連絡先 担当・長谷部雅志 TEL 052-661-1979	同窓会員
学術講演会 平成23年 12月3日(土)	「経過から学んだ欠損歯列の読み方」 宮地建夫先生 (東京都開業)	熊本県歯科医師会館 3階ホール 熊本市坪井2-4-15 TEL 096-343-8020	熊本県支部 連絡先 担当・堀川 正 TEL 096-381-5346	支部会員 同窓会員 歯科関係

北海道地域支部連合会

平成22年度連合会総会(札幌)を終えて

平成22年8月21日(土)全道から71名の同窓が参加し、札幌第一ホテルにて午後6時より開催されました。千葉 亘副会長の開催の辞に続き校歌斉唱後、物故会員のご冥福を祈り

黙祷を捧げた後、来賓の大山萬夫東歯大同窓会会長、井出吉信東歯大副学長、高橋義一東歯大同窓会専務理事が紹介されました。

針谷連合同窓会会長から、御自身の経験に基づいた同窓家族主義について強調され、今後も東京歯科大北

海道同窓会をもちたてていきたいと挨拶がありました。また、大山同窓会会長から、内部的問題の対応・外へ向っての活動を行ってきたこと、また、東京歯科大120周年記念式典・大学移転についてお話があり、今後内部監査室を設け、内部監査を



きっちり行いたいこと、さらに同窓会の募金についても説明がありました。移転については是非会報に目を通してほしいとお話がありました。

続いて感謝状および記念品贈呈が行われ、米寿のお祝いが福島和生先生、馬淵清志先生、喜寿のお祝いが松井繁幸先生、伊藤 格先生、杉村仁先生に渡されました。感謝状が柳清二本部同窓会前副会長に渡されました。

次いで議長に麻生 博先生、副会長に原岡研二先生が選ばれ、会務報告(杉山総務)、決算報告(森田会計)、監査報告(松川監事)と速や

かに議事が進行され、可決承認されました。

その後、次期総会開催地である十勝支部長、梅安秀樹先生より、「9月10日(土)の十勝総会は、小樽総会の様に楽しい総会にしたい」とお話がありました。

その後、佐藤英俊同窓会副会長の閉会の辞にて無事総会を終了しました。

記念写真の撮影後、井出副学長より大学移転の構想と新校舎群の青写真等の説明があり、学生教育(研修医の扱いを含めて)の変更など、また、会員から移転の進捗状況、研究

機器の設置場所、寄付について種々の質問がありました。

次いで高橋専務理事より、会費納入率が悪いこと、未加入増加の件、組織のスリム化と機構改革、支部との情報ネット、移転後の大学との関係についてご説明がありました。次いで、会場を変えて同ホテルにて懇親会が行われ、喜田正史先生の乾杯に始まり、途中、石井みどり先生、西村まさみ先生が挨拶にみえられ、その後アトラクションとして浅沼修さんの「時計台のある街」等の歌を聴きながら、各自残暑の残る北国の夜を楽しみ懇親を深めました。

道連合会報38号発行される

「市川予科生に問ふ」と題した道連合会会報第38号がついに完成しました。

本号は全国の同窓生より多くの反響があった懐かしの市川予科を今回も特集しております。

今回は一期生の高添一郎先生に市川のリベラルアーツについて熱き思いを語って頂きました。

さらに、平井満喜男先生とその御子息様、嶺脇四郎先生、そして昭和

50年卒の牧 厚志先生など見のがすことの出来ぬ内容です。今号も同窓諸兄必読の書であります。是非、一読を。残部あります。

(大内和憲 記)

連絡は下記まで。

TEL・FAX 011-863-6061

〒003-0011

札幌市白石区中央1条7丁目
白央ビル2F

大内歯科・小児歯科クリニック

大内和憲



東北地域支部連合会

第48回連合会総会

平成23年6月11日(土)、青森市のホテル青森において、標記連合会の役員協議会、並びに総会が開催されました。3月11日の大震災により、一時は開催見送りが検討されましたが、地域理事の高橋文明先生のご尽力で、各支部に開催の是非を打診頂きましたところ、むしろこの様な時だからこそ、集まって話し合った方が良いとの意見を多数頂戴し、例年通りの開催に到りました。

○役員協議会

小林敏彦青森県常任理事の司会で、先ず松山陽一連合会長のご挨拶。

続いて、ご来賓の大山萬夫同窓会長と高橋義一同窓会専務理事から同窓会の現況、及び今回の大震災に際しての同窓会の対応、支援の取り組みなどのお話がありました。その後、直接罹災された県をはじめ各県支部の現況報告があり、対応や支援に関する問題について、予定時間を大幅に超えて、話し合いが行われました。協議の末、声明文を採択しております。

○総会、学術講演会

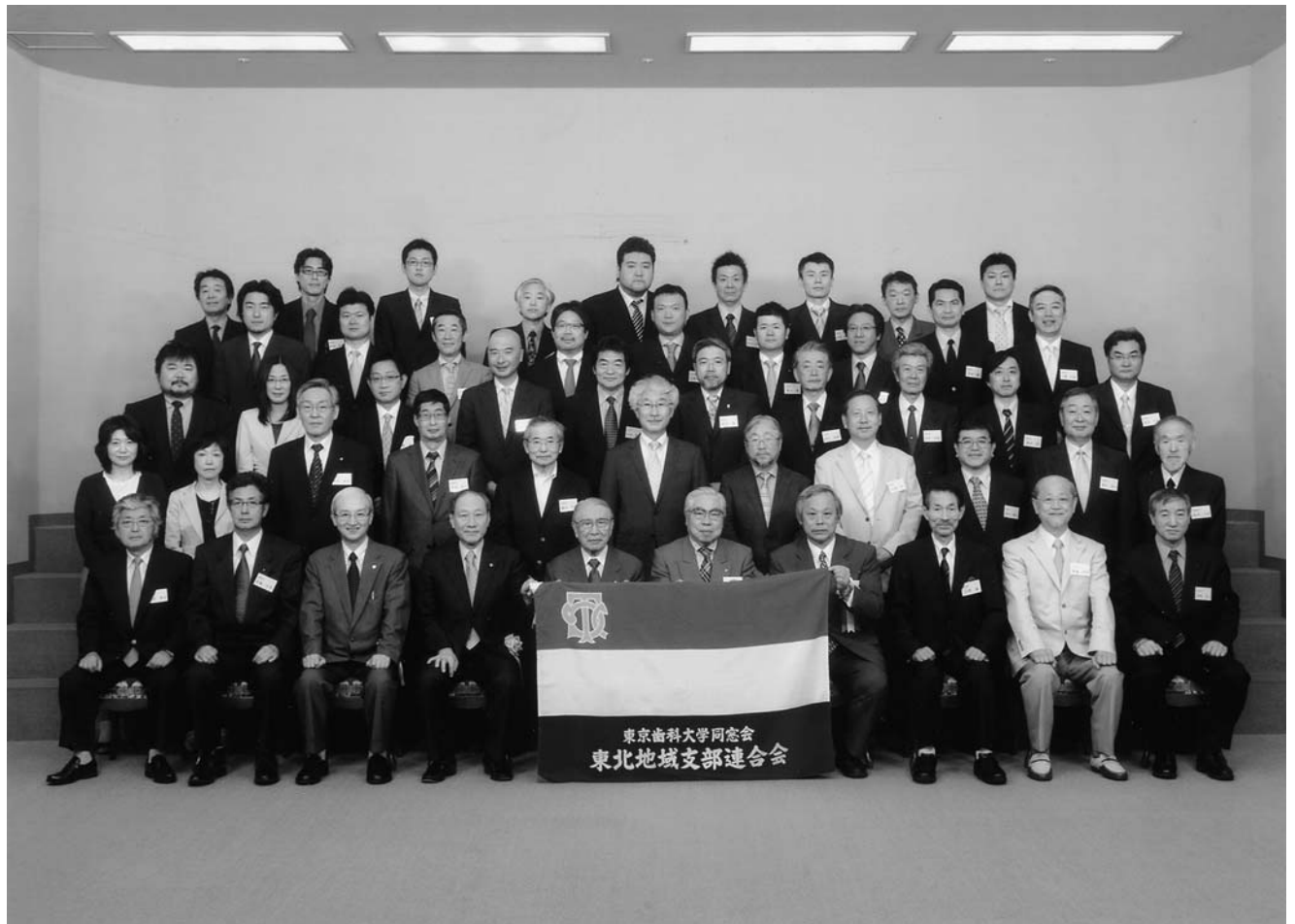
口腔外科学講座の高野伸夫教授より、大学の現況、移転の状況等についてお話があり、各報告の後、議事

はすべて可決されました。

高野教授の学術講演は「これだけは知っておきたい口腔粘膜疾患-口腔がん検診に向けて-」。日常臨床の中、見逃せない粘膜異変について、解り易い解説を頂きました。なお高野先生への謝礼金は、先生が全額支援金にと、寄付されました。

○懇親会、ゴルフ大会

写真撮影後、宴となり、ねぶた囃子の響く中、旧交を温めました。翌日は東奥カントリークラブにおいて、ゴルフ大会も例年通り開催されました。(畑中政利 記)



近畿地域支部連合会

連合同窓会ゴルフコンペ

平成23年5月15日(日), 大阪府にある伏尾ゴルフ倶楽部にて近畿連合同窓会のゴルフコンペが開催されました。ウィークデイは雨が続いていましたが, この日は初夏を乗り越して夏を思わせる陽気で, 慣れない様子で鳴く蝉の声も聞かれました。やや遠方よりお越しの先生方は, 前日大阪に泊まって当日参加していただいたそうです。幅広い世代の同窓生が一つの場所に集まり, 同じ趣味を楽しむのは大変貴重で楽しい時間だと思います。また, 私の組についていたキャディーはコース地元の男子大学生で, 夏には1年休学して東北にボランティアに行くと言っていました。人どうしのつながりを強く感じる一日でした。

さて結果ですが, 井口廣昭先生が西44, 東48のトータル92, HD19.2, ネット72.8で優勝されました。ベストグロス富山佳寿人先生で, 西

順位	氏名	西	東	トータル	HDCP	ネット	
1	井口 廣昭	44	48	92	19.2	72.8	(和歌山)
2	戸村 博臣	42	46	88	14.4	73.6	(和歌山)
3	中村 忠	42	45	87	13.2	73.8	(滋 賀)
4	富山佳寿人	39	45	84	9.6	74.4	(滋 賀)
5	伊藤 友秀	43	45	88	13.2	74.8	(大 阪)
6	西村 亮介	46	51	97	21.6	75.4	(兵 庫)
7	山本 勇一	44	47	91	15.6	75.4	(大 阪)
8	浅野 正則	56	50	106	30.0	76.0	(大 阪)
9	宗本 匡由	43	44	87	10.8	76.2	(兵 庫)
10	田中 令子	58	53	111	33.6	77.4	(和歌山)
11	崎山 裕行	48	42	90	12.0	78.0	(兵 庫)
12	高田 克重	56	59	115	36.0	79.0	(滋 賀)
13	高木 祥広	55	54	109	28.8	80.2	(大 阪)
14	田中 紀夫	56	56	112	31.2	80.8	(和歌山)
15	徳永 昭夫	56	60	116	32.4	83.6	(大 阪)

39, 東45のトータル84でした。他にはニアピン, ドラコン, 参加賞等の賞品が各先生方に手渡されました。最後に, この度の震災への支援金を各先生方から寄付していただきました。

た。
結果は以上の通りです。参加していただいた先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。
(大阪府支部・高木祥広 記)



四国地域支部連合会

平成23年度連合同窓会

平成23年5月28日(土)、高知市あんしんセンターにおいて開催されました。あんしんセンターは、県歯科医師会の他、医師会、薬剤師会、消防局、保健所、危機管理室、災害対策本部等が入る高知市の防災・医療の中核で、昨年4月にOPENしたばかりの施設です。

当日は季節はずれの台風接近であいにくの空模様の中、四国4県から30余名の参加がありました。

高知県支部鬼谷信美副支部会長の開会の辞にて幕が開き、全員で校歌を斉唱、5名の物故会員に対し黙祷を捧げました。西川文雄高知県支部会長の挨拶に続いて、ご来賓の大山萬夫同窓会会長、梅村長生同窓会副会長、高橋義一同窓会専務理事、久保田 晃同窓会四国地域支部連合会会長、また大学からの高野伸夫東京歯科大学千葉病院院長のご紹介、ご挨拶がありました。大山会長からは、水道橋移転の状況と東日本

大震災の現状を、梅村副会長からは、同窓会組織の強化、改革について、高橋専務理事からは、大震災に対する同窓会の対応等を現地のスライドを交えて、また久保田連合会会長からは、四国4県結束して頑張ろうとのお話がありました。また、高野病院長からは、現在の大学と学生事情、そして大学入試と国家試験に対する取り組みと結果等についてのお話がありました。その後、連合同窓会の次回の当番県である徳島県の宮井義博支部会会長より、来年開催を予定しているとお言葉をいただき、総会は終了となりました。

続いて、東京歯科大学口腔健康臨床科学講座准教授関根秀志先生をお招きして「失敗例から考えるインプラント治療のリスクマネジメント」と題した学術講演が行なわれました。インプラント治療の問題点、治療に要するエネルギーの大変さ、術後管理の重要性和難しさ等、大変貴重な内容でした。関根先生も3月

11日水道橋病院にて大震災に遭遇し、帰宅できない職員、患者さんと共に病院に泊られたそうです。時間の関係でかけ足の講演となってしまい申し訳ありませんでした。

懇親会は4年前と同じ伊勢エビ料理「中平」(このエビ料理目的で参加した会員も多い)。窪 盛偉高知県歯科医師会副会長の乾杯の挨拶で開宴となり、刺身、鍋、雑炊と伊勢エビを堪能しました。2次会は日航旭ロイヤルホテルに場所を移し親睦を深めました。その後、屋台のラーメン他3次会へと夜の街へ皆さん消えて行きました。翌日は台風接近の為強風大雨。予定されていたゴルフは中止。午前中観光予定だった高野、関根両先生は早朝の飛行機で急遽帰京されました。両先生他、ゴルフを楽しみにされていた先生方には大変御迷惑をおかけしました。

次回また高知県が担当の時も、是非おいしいエビを食べに行きましょう。お待ちしております

(池田 顕 記)



青森県支部

総会および学術講演会

平成23年度同窓会の定時総会及び学術講演会が3月5日(土)午後3時からホテル青森に於いて開催されました。来賓として同窓会より副会長の片倉恵男先生、大学より歯内療法学講座教授の中川寛一先生をお迎えいたしました。

総会は小林敏彦常任理事の司会で始まり松山支部長の挨拶、片倉副会長から同窓会の会務状況、大学創立120周年記念事業の同窓の募金受付状況等のお話し、中川先生からは大学の近況、国試等についてお話しをいただきました。今年度の新入会員

として大嶋和歌子先生(昭和52年卒)の紹介がありました。議長には住吉辰郎先生を選出し、逝去された猪股幸太先生、渡辺雄幸先生、清藤勇也先生に黙祷を捧げました。続いて平成22年度の報告があり、その中で清藤勇也先生(旭日小綬章受章)、船越良一先生(厚生労働大臣表彰)の報告がありました。議事に入り第1号議案から第4号議案まですべて承認可決されました。続いて役員改選が行われ、支部長には松山陽一先生、監事には櫻田守利先生、宮川克孝先生をそれぞれ再度選出いたしました。

学術講演は歯内療法学講座主任教授の中川先生より「根管治療における難治症例とその対応」と題して講演をいただきました。特に根管治療の難治症例をあげ、レントゲン写真や根管探索時の感覚から根管内をイメージし、根管全体を清掃、消毒することが重要であることを述べられ大変わかりやすい講演会でありました。懇親会は和気藹々の雰囲気ですべてを過ぎるのも忘れ、来年もまた元気で再会できるように念じ、恒例となりました校歌の大合唱の後、総会の全日程を無事終了いたしました。

(本田富彦 記)



秋 田 県 支 部

平成22年度定時総会

並びに学術研修会・就任祝賀会開催

平成23年5月21日(土)午後2時より秋田キャッスルホテル天平の間に於いて秋田県支部会員数50名中30名の出席により平成22年度定時総会が開催された。同窓会本部より山本英之常任理事、高橋文明東北地域選出理事、さらに本大学からは千葉病院総合診療科高瀬保晶准教授を来賓として御迎接を賜った。

定時総会は寺岡洋一副支部長の開会の辞で始まり、今年1月29日に御逝去された五味武一先生(五十二期会・元支部長)並びに東日本大震災において被災をされ不慮にも亡くなられた方々への黙祷を捧げた。続いて昨年6月より新支部長並びに今年4月より社団法人秋田県歯科医師会会長に就任された藤原元幸支部長が挨拶に登壇された。次に山本英之先生が現在の同窓会体制における総括と本学水道橋校舎への移転現状報

告を行った。そして高橋文明先生より東日本大震災に伴い被災をされた同窓会員への支援金協力に関して詳細な説明が成された。また、高瀬保晶准教授からは今年も順調に高い国家試験合格率達成と本学の最新歯科医学教育の現状報告が成された。その後、会務・一般並びに監査報告と全認定議案も満場一致で可決承認された。定時総会終了後、高瀬保晶准教授による「レーザー治療について」と標した学術研修会が行われ、臨床に直結した最新レーザー治療の基礎的知見とその適用治療概要、並びに今年出題された国家試験難問題に対する解釈と詳解説を拝聴した。

記念写真撮影後、高橋昭一前支部長の祝杯献上で就任祝賀会が開宴しサプライズでは昨年11月末に「開運なんでも鑑定団」にTV出演された山田耕一郎先生(弥生会)の門外不出の秘蔵宝物を全員で鑑定した。さらに高瀬先生の奥様三千代先生も

来秋され終始懇談の華艶が舞った。

(五味明雄 記)

秋田県支部役員名簿

支 部 長	藤原 元幸(昭和50年卒)
副支部長	寺岡 洋一(昭和49年卒)
	岡田 寛(昭和50年卒)
	嶋田 均一(昭和51年卒)
	高橋 文明(昭和52年卒)
	山田耕一郎(昭和54年卒)
理事(総務)	鈴木 文登(昭和56年卒)
(庶務)	五味 明雄(昭和63年卒)
(学術)	五味 明雄(昭和63年卒)
(会計)	駒橋 純(昭和62年卒)
(無任)	武田 勤(昭和54年卒)
	清水 隆夫(昭和62年卒)
	金子 恵三(昭和62年卒)
	工藤 卓奥(昭和62年卒)
	山本 高敬(平成2年卒)
監 事	有明 一(昭和42年卒)
	奈良 周彦(昭和56年卒)
顧 問	駒橋 典夫(昭和26年卒)
	太田 晃(昭和32年卒)
	山内 静(昭和33年卒)
	高橋 昭一(昭和38年卒)



群馬県支部

群馬県同窓会定時総会

平成23年3月12日(土)午後4時より、前橋市のホテルサンダーソンにて、平成22年度東京歯科大学群馬県同窓会定時総会が行われました。司会を原 茂総務が努め、真下泰彦副会長が開会の辞を述べ、慎重審議のお願いをしました。その後、今回の総会前に亡くなられた洪川の三原寿夫先生、前橋の井田 實先生に黙祷を捧げました。

挨拶では清見能久会長が東北関東大震災の中参加していただいた会員に対して感謝の意を述べ、また11年の長い間、群馬県歯科医師会会長を務められた川越文雄先生の労をねぎらいました。次に武安一嘉顧問が、歯科界に明るい話題のない昨今、新たに群馬県歯科医師会会長になる村山利之先生への期待を述べました。

大山萬夫本部同窓会会長と川越文雄群馬県歯科医師会会長は地震の影響で欠席されました。



三丸 潔庶務による庶務報告の後、山口保男先生を議長に選出し、第1号議案：平成23年度事業計画(案)の承認を求むる件、第2号議案：平成23年度一般会計並びに福祉共済部会計予算(案)の承認を求むる件、第3号議案：役員に関し承認を求むる件について慎重審議し承認されました。特に第3号議案では清見能久会長が「もう一期がんばる」と力強く宣言され、参加された会員より励ましの言葉を頂きました。そして引田正俊副会長が、地区幹事会を充実させていくことと、一般会員が本部の意見や情報をより得られるようにしていきたいと述べ閉



会しました。

総会終了後、記念撮影し、中世吉昭会計の司会で懇親会が行われました。清見能久会長より村山利之次期群馬県歯科医師会会長へ群馬県同窓会からのお祝い金を贈呈しました。そして村山利之次期群馬県歯科医師会会長が、東京歯科大学の名を汚さないようがんばり、会員の先生方の役に立ちたいと挨拶されました。その後、正木光児先生が乾杯の音頭をとり、終始和やかに会が進行し、森下正教先生のリードで校歌を斉唱し、岩田康一監事の締めで閉会となりました。(矢内太郎 記)

写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。



川崎支部

平成23年6月11日(土)毎年恒例川崎水橋会学術懇親会が中原歯科保健センターにて開催された。

今回は母校東京歯科大学口腔健康臨床科学講座総合歯科学分野准教授古澤成博先生をお迎えして、『難治性根尖性歯周炎の原因とその対処法』をテーマにご講演いただいた。日常臨床にありがちな難症例を、水酸化カルシウム製剤などの応用でいかに解決するか？先生の分かりやすい解説は明日からの臨床にすぐに役立つものばかりであった。また活発な質疑応答によりさらに理解が深まった。



講演会終了後は、場所を移して『みやび亭』にて懇親会が開催された。多くの会員参加（22名）が得られたことで大なる盛り上がりを見せた。

東日本大震災からちょうど3カ月。地元武蔵小杉で自粛ムードで開



催された今回の会であったが、意気消沈することのない有意義な一日であった。次回からも多くの先生方のご参加よろしくお願いたします。

(島 夏夫 記)



武蔵野支部

大村光晴先生白寿のお祝い会

武蔵野歯科医師会の最長老である大村光晴先生は明治45年のお生まれで、本年3月に99歳を迎えられました。

真夏の日差しの残る7月9日夕刻、同窓会武蔵野支部では吉祥寺南の先生のご自宅にお邪魔して、近隣の他校出身先生もまじえ「白寿のお祝い会」を開催いたしました。

大村先生は山梨の塩山がご出身で、仙台の旧制第二高等学校に進まれましたが、縁あって東京歯科大学の前進である東京歯科医専にご入学され、昭和12年に卒業されました。戦時中は軍医として満州におられました。終戦後はシベリアでの抑留体験もごさいます。

昭和23年に武蔵野市吉祥寺にご開



日高支部長による表彰

業。地域医療に貢献するとともに、地区歯科医師会ではその温厚なお人柄で学閥に捉われない会の融和にご尽力されたようです。以来60余年が経って現在大村歯科医院は立派なご子息に引き継がれ、お孫さんは2年前から千葉校舎で勉学中です。

先生はスキーと山歩きを愛し蔵王に山小屋を持つほどですが、90歳を超えてもお一人で奥多摩や高尾山を



散策に行かれていたほどお元気であられます。健康長寿の理想をまさにみずから体现されている武蔵野の大先輩であります。

先生には皆様の目標となりますよう更なるご長寿をお祈り申し上げます。

あらためて白寿おめでとございます。(小笠原 滋 記)



校旗の前、大村先生を囲んで

福島県支部

大山萬夫同窓会会長が福島県の被災地を視察

岩手県、宮城県の被災地を視察された大山会長と片倉副会長は、5月2日(月)午前中に福島県に入られた。片倉恵男副会長の運転するレンタカーで、まず、郡山地域周辺の会員に会われた。森田副支部長より郡山、白河の地震による被害状況の説明を聞かれ、会員へ労いのお言葉をいただき、復興に向けての支援を約束された。

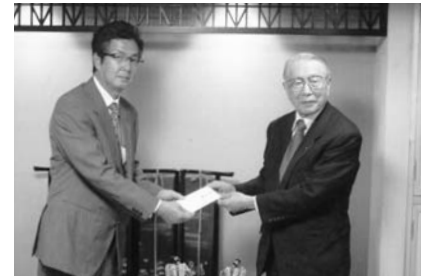
午後からは、浜通りいわき市周辺の診療中の会員宅を回られて、お見舞いの言葉をかけられ励まされた。

宿泊地の福島市に戻られてから、高橋義一専務理事も加わり、市内の料亭“おりおり”において佐藤正矢



福島県支部長をはじめ、7名の支部役員と懇談。『メディアの報道よりも、実際に、自分の目で被災状況を見ることができ、大変に意義のある訪問だった。何が必要かを、本部に要望してほしい。』と挨拶された。さらに高橋専務理事より、詳細な被害状況を報告するように、とのご指示があり、9時30分散会した。

2週間にも及ぶ停電と断水。100



回の震度6の余震。トイレやお風呂も無し、暗闇での余震の恐怖。外出すれば放射能。また、いつ、停電するのか、断水するのか。余震は、また、いつ起こるのかの不安。

修理して診療を再開するのは、患者への責任と、仕事への情熱。

支援をお願いする。

(佐藤正矢 記)

クラス会だより

クラス会開催日程

いとし会 (昭和24年卒)	とき	平成23年10月23日(日) 12:30~
	ところ	つきぢ田村
八紫会 (昭和35年卒)	とき	平成23年10月8日(土)~10日(月)18:30~
	ところ	熊本 ホテル日航熊本 5階「こすもす」
久喜会 (昭和36年卒)	とき	平成23年11月2日(水) 17:00~
	ところ	帝国ホテル本館
踏志会 (昭和41年卒)	とき	平成23年10月15日(土)
	ところ	ホテル安比グランド
志学会 (昭和42年卒)	とき	平成23年10月8日(土)~9日(日)
	ところ	山形県米沢市小野川温泉
晃和会 (昭和43年卒)	とき	平成23年10月15日(土) 17:00~
	ところ	帝国ホテル
新葉会 (昭和63年卒)	とき	平成23年9月24日(土) 17:30~
	ところ	東京ドームホテル

参 謝 会

平成11年卒

卒業して以来、最初の「参謝会懇親会」を7月3日（日）に東京都千代田区の「ホテル ニューオータニ」で開催いたしました。本来であれば3月20日に予定をしておりましたが先の大震災により延期をしていました。3月の時点では80名を超える会員が集まる予定でありましたが、急遽変更された日時にもかかわらず70名近い会員にお集まりいただきました。

市川裕文君の司会で始まり、まずは逝去された元学年副主任の矢崎欽也先生、会員の松井(旧姓 片岡)麗さんに黙祷が捧げられました。

この日は来賓として元学年副主任の澤田 隆先生、花岡洋一先生、久保周平先生、青木 聡先生、山倉大紀先生にお越しいただきました。澤田先生からはお祝いのお言葉とともに、大学の現状や水道橋移転のお話をいただきました。私たちのように大学から離れて久しい者には懐かしいとともに、近年の学生気質



や講義の様子など衝撃を受けるような話題もあり、聞き入ってしまいました。

会員の三幣君から乾杯の御発声をいただき歓談が始まりました。12年ぶりに顔をあわせる級友もおり、皆、笑顔に笑い声も混じる楽しい時間を過ごしているようでした。少々時間が経過した頃、山倉先生、久保先生、青木先生、花岡先生にも現況を交えたお話をいただきました。先生方もお変わりなく、心温まるエールを頂戴して、会員一同感謝しております。

和やかに進んだ懇親会も時間はあっという間に過ぎ終盤をむかえ、



会員がリレー形式で次を指名しながら十数名に現況を報告していただきました。この12年の間に結婚をしたり、開業をしたり、といった楽しい話を聞くことができました。

今回は会員の小林健一郎君に保育士さんを手配してもらったおかげでお子さんを同伴された会員のかたも会場に隣接したスペースに預けて楽しめたことと思います。

最後に記念撮影を行い、あっという間にお開きとなりました。2時間という短い時間でしたが、学生に戻ったようで、楽しく過ごすことができました。 (石井治伸 記)

写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。



OB会・グループ・サークルだより

山岳OB会 総会報告

OB会名を「杖痕クラブ」と呼び80年になります。志賀高原発哺温泉に、50年間山小屋を維持していましたが、残念にも4年程前に閉山しました。杖痕クラブは、会員相互の親睦と、山岳部員の山行を通して登山技術の指導などしています。毎年3月には、発哺温泉杖痕ヒュッテにスキー合宿と還暦祝を開催し、北海道・九州からも祝の為に集合した事を懐かしく思います。



涼やかな千条の滝前にて

今年は、6月11日(土)箱根・強羅にて、クラブ総会と還暦該当者の祝賀会を開きました。東日本大震災の自粛ムードの中でしたが、福島県から直接被災された方を含め、19名の参加がありました。還暦祝賀会は、30数年前から恒例行事の一つとして開催しています。クラブのワッペンを付けた赤い上着を贈って祝っています。朝波雄二君(昭和50年卒)・大泰司正嗣君(昭和52年卒)が祝福を受けました。この2名を学生時代に、穂高岳などでロッククライミングを直接指導した元部長の野間弘康先生と、剣岳合宿に参加指導してくださった朝浪惣一郎先生から祝いの言葉を、いただきました。82才の小山田先生から45才の野間大郎君までの年齢差を感じさせぬ会合となりました。翌12日(日)は、強烈な朝日



還暦用、赤いジャケット着用
(左=大泰司君、右=朝波君)

に起こされました。現地解散となりましたが、有志7名は、小涌谷駅から湯坂路(鎌倉古道)を歩き、湯本駅までの3時間行動を共にしました。紫陽花満開には少し早かったが、日頃のトレーニングになりました。

参加メンバー(敬称略)

小山田 修・佐々木康之・酒井雄学・鈴木恭平、大塚弘介・依田雄弘・野間弘康・加藤孝道・加藤喜代次・山口勝康・朝浪惣一郎・本多哲郎・森田芳和・朝波雄二・大泰司正嗣・福嶋修治・西井和彦・茂木元介・野間大郎

(幹事会一同 記)



還暦祝いにて

ワンダーフォーゲル部 OB 会

「下野正基教授・退任の会」

今年5月21日(土), ワンダーフォーゲル部 OB 会総会に引き続き, ご退職並びに長年に渡りワンダーフォーゲル部の部長の任に携わっていただいた慰労を兼ねた「下野正基教授・退任の会」が執り行われ, 総勢63名が参加しました。

震災間もない時期でしたので, 被災者への黙祷から, 総会, 写真撮影, 祝辞として下野先生がクラブ時代に関連された記録・写真をまとめたリーフレットをもとにした各世代(石田 剛先生, 古賀正忠先生, 中沢勝宏先生, 佐藤 裕先生, 浜野弘規, 安達 亮先生) から各々が, 下野先生との山の思い出を語ったのち, クラブ創設の笠原文武先生による乾杯のご発声, そして懇親会が行われました。3年前のワンダーフォーゲル部創立50周年記念行事と同じ三井クラブでの開催でしたが, 当日はあいにくの曇天で54階からの新宿の夜景は楽しめなかったものの, 下野先生との山の思い出を語った余韻を味わう懐かしいひとときでした。



会の終了前に下野先生から, クラブ・OB 会での思い出, 山における今後の抱負を語っていただきました。名著「50歳からはじめた山登り(本多勝一 著)」のごとく, 今の学生以上に「現役」である下野先生の今後の目標は「日本百名山制覇」ということで, 未踏峰はあと30山, 北海道・九州・飯豊朝日などアプローチが遠い山が残っているとのことでした。クラブの是である「slow but steady」を基に, 今後の楽しい「山の現役生活」を期待しています。

(昭和62年卒・

ワンダーフォーゲル部

OB 会長 浜野弘規 記)



<ご案内>

この OB 会総会に合わせて「50周年記念記録集 (DVD)」をまとめました。50周年記念行事の内容, クラブ・OB 会のイベントの映像, 現役の山の報告「蒼雲」, OB 会の機関誌「山の紳士」など, 50年のワンゲルの歴史・財産である記録集です。OB 会員にはすでに発送しましたが, OB 会を退会された方, 元部員やクラブにゆかりのある方にはご希望があれば郵送いたします。記念記録集担当: 上田貴之 (東京歯科大学有床義歯補綴学講座) にメールか FAX でご連絡ください (締切: 9月30日)。

連絡先: uedat@tdc.ac.jp

FAX 043-270-3935



すいどうぼし

第3回 東京都女性歯科医師の会

秋の学術講演会 御案内

東京都女性歯科医師の会 会長 山田 茂子（昭和47年卒）

私達女性が「おひさま」のように明るく周りを照らすことができれば、貴女を必要とする家族や患者さんも明るく、幸せになり、その輪が広がっていくことでしょう。

女性歯科医師は日々、仕事・家事・育児・雑用などに追われ、ともすると自分自身の心と体のケアを

忘れがちです。

東京都女性歯科医師の会では、平成23年度秋の講演会に、「女性のライフステージにあわせた女性医療の重要性」を考える会を企画いたしました。演者は「女性外来」立ち上げの先駆者のおひとりで、ご活躍中の、対馬ルリ子先生にお願いするこ

とができました。

明日からでも役立つ情報が満載の講演会に同窓の女性歯科医師の先生方のご参加を心よりお待ち申し上げます。

講演会責任者：

鈴木千枝子（昭和53年卒）

記

1. 日時：平成23年11月13日（日） 11時15分～15時

2. 場所：フォーシーズンズホテル 椿山荘東京

東京都文京区関口2-10-8

TEL 03-3942-2222

FAX 03-3943-2300

3. 日程：

学術講演会 11時15分～12時45分

講師 医療法人社団 フィーメールガーデン

ウイミンズ・ウェルネス銀座クリニック 院長 対馬ルリ子先生

演題「女性を支える医療の重要性（仮）」

－ライフステージをふまえて－

懇親会 13時～15時

会費：会員 講演会 2,000円 懇親会 5,000円

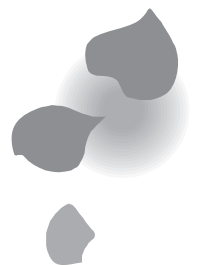
非会員 講演会 4,000円 懇親会 5,000円

大学院生・臨床研修医 講演会無料 懇親会 5,000円

4. 申込先：<http://www.tokyo-woman-dentists.com/>

（事務局）高野歯科クリニック 高野博子（昭和55年卒）

TEL・FAX 03-3601-2543



庶務日誌

7月

1) 理事会

7月9日(土) 第3回理事会

2) 委員会

7月1日(金) 会則検討チーム打合せ会

4日(月) 総務関係打合せ会

4日(月) 事業推進部 (学術委員会・プログラム委員会)

5日(火) 事業推進部 (企画会議)

6日(水) 事業推進部 (大学・同窓連携委員会・インプラントセミナー運営委員会)

11日(月) 広報部 (会報委員会)

11日(月) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会

13日(水) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会

25日(月) 事業推進部 (学術委員会・企画会議)

27日(水) 事業推進部 (学術委員会・研修委員会)

28日(木) 総務・厚生部 (厚生委員会・ゴルフ大会実行委員会)

29日(金) 事業推進部 (保険委員会)

31日(日) 事業推進部 (学術委員会・全体委員会)

3) 出張

7月3日(日) 愛知県支部主催学術講演会

講師・山根源之名誉教授 (母校)

9日(土) 群馬県支部総会 片倉副会長出席

学術講演会 講師・山田了名誉教授 (母校)

10日(日) 埼玉県支部総会

大山会長, 関副会長出席

学術講演会 講師・松坂賢一准教授

(母校)

27日(水) 練馬支部主催学術講演会

講師・阿部伸一教授 (母校)

30日(土) 東京地域支部連合会支部長会

臼井常任理事出席

4) 事業

7月16日(土) TDC インプラントセミナー・マスターコース

17日(日) TDC インプラントセミナー・マスターコース

23日(土) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会 (本会担当)

8月

1) 委員会

8月1日(月) 事業推進部 (大学・同窓連携委員会)

3日(水) 事業推進部 (シンクタンク委員会)

3日(水) 事業推進部 (運営委員会)

5日(金) 広報部 (ホームページ委員会)

5日(金) 事業推進部 (大学・同窓連携委員会)

9日(火) 会則検討チーム打ち合せ

20日(土) 全国歯科大学同窓・校友会学術連絡会

22日(月) 広報部 (会報委員会)

22日(月) 事業推進部 (大学・同窓連携委員会・インプラントセミナー運営委員会)

23日(火) 事業推進部 (若手研修委員会)

24日(水) 事業推進部 (学術委員会・研修委員会)

29日(月) 事業推進部 (学術委員会・企画会議)



逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 30 卒	松 村 久 夫 (80歳)	23. 5. 5
新宿支部	〒168-0082 杉並区久我山3-47-22	
●昭 54 卒	筒 井 豊 (60歳)	23. 5. 22
大分県支部	〒871-0011 中津市下池永196	
●昭 42 卒	田 中 文 彦 (68歳)	23. 5. 25
鳥取県支部	〒680-0841 鳥取市吉方温泉2-641	
●昭 24 卒	逸 見 玲 (82歳)	23. 5. 25
富山県支部	〒930-0974 富山市長江3-1-10	
●昭 38 卒	上 野 光 (72歳)	23. 5. 26
茨城県支部	〒300-0043 土浦市中央1-14-24	
●昭 41 卒	藤 城 彰 人 (71歳)	23. 5. 29
愛知県支部	〒440-0881 豊橋市広小路1-20	
●昭 12 卒	山 本 隆 夫 (96歳)	23. 5. 28
大分県支部	〒876-0832 佐伯市船頭町2-14	
●昭 40 卒	佐々木 昭 (70歳)	23. 5. 24
札幌支部	〒064-0952 札幌市中央区宮の森二条6丁目 イリス宮の森107	
●昭 12 卒	湯 澤 正 興 (94歳)	22. 10. 25
練馬支部	〒177-0041 練馬区石神井町4-27-29	
●昭 23 卒	海老原 信 (86歳)	23. 5. 31
中野支部	〒164-0001 中野区中野5-30-13	
●昭 15 卒	中 野 博 (94歳)	23. 5. 20
三重県支部	〒511-0073 桑名市北寺町30	
●昭 22 卒	今 村 嘉 孝 (86歳)	23. 6. 4
横浜中央支部	〒220-0033 横浜市西区東ヶ丘13	
●昭 38 卒	小 山 昌 道 (75歳)	23. 6. 5
埼玉県支部	〒343-0026 越谷市北越谷4-23-39-801	
●昭 36 卒	長 井 宏 之 (74歳)	23. 6. 2
千代田支部	〒248-0017 鎌倉市佐助1-14-13	
●昭 20.9 卒	川 崎 義 人 (87歳)	23. 6. 9
愛知県支部	〒466-0827 名古屋市昭和区川名山町54	
●昭 30 卒	谷 口 良 一 (80歳)	23. 6. 14
札幌支部	〒064-0953 札幌市中央区宮の森三条13丁目	
●昭 58 卒	福 士 孝 裕 (52歳)	23. 6. 16
青森県支部	〒037-0016 五所川原市一ツ谷509-14	
●昭 36 卒	鈴 木 啓 仁 (74歳)	23. 6. 16
静岡県支部	〒426-0061 藤枝市田沼3-2-24	
●昭 34 卒	大 塚 重 雄 (77歳)	23. 6. 24
宮城県支部	〒984-0827 仙台市若林区南小泉2-1-20	
●昭 22 卒	脇 猷 二 (88歳)	23. 5. 9
練馬支部	〒176-0012 練馬区豊玉北4-5-15-706	
●昭 19.9 卒	杉 山 博 重 (87歳)	23. 6. 30
静岡県支部	〒424-0808 静岡市清水区大手町2-2-1	
●昭 35 卒	菊 池 成 幸 (76歳)	23. 7. 5
宮城県支部	〒989-6221 大崎市古川大宮5-6-5	
●昭 20.9 卒	浅 利 義 則 (87歳)	23. 7. 7
埼玉県支部	〒333-0842 川口市前川町4-39-8	
●昭 63 卒	五十嵐 之 人 (49歳)	23. 7. 10
新潟県支部	〒950-2112 新潟市内野町1372-2	
●昭 11 卒	高 橋 敬 文 (99歳)	23. 7. 9
新宿支部	〒169-0075 新宿区高田馬場4-2-32	

- 昭 35 卒 阿比留 次 郎 (79歳) 23. 7. 19
 福岡県支部 〒810-0053 福岡市中央区鳥飼1-3-30
- 昭 34 卒 大 江 金 雄 (79歳) 23. 7. 22
 富山県支部 〒930-0138 富山市呉羽町7100-1

—— 歯科公衆衛生の旗手 今村嘉孝君逝く —— 五十二期会(昭和22年卒) ——



第二小隊，座席番号83番，第一回国家試験組。戦中戦後を走りぬけ，母校口腔外科教室を経て，父君の横

浜の診療室に。

昭和26年神奈川県歯科医師会公衆衛生委員の会務を振り出しに，フッ素のむし歯予防推進，診療の傍ら歯大の口腔衛生学教室の岡本教授の元へ研究に入り，医学博士の学位を取得。一方1975年に飯塚喜一先生，榊原悠紀田郎先生等と歯科公衆衛生の勉強会「ヨナミ会」を発足させ，収来会の主導発展に尽くし次回で150回と続く異色のロングラン研修

会となっている。又，昭和63年には日本むし歯予防フッ素推進会議全国大会の会長を務めた。

特筆すべきは，2009年世界保健機関（WHO）の新刊書「う蝕予防のための牛乳へのフッ化物添加」で，今村医博の業績として1959年に世界で初めて学童給食の牛乳へのフッ化物添加についての臨床的研究を報告したと詳細に述べられている。

君の業績誌に「読書，ドライブ，テニス，Y談，少々のお酒，そして公衆衛生をこよなく愛し，A型，責任感強く，行動力に優れ，多少気の短いところも」と紹介されているが，学生時代は何時もニコやかな勉強好きと定評だった。

平成19年5月の卒後60周年級会に

はご夫人同伴，「父から四世代東歯出は珍しい方だと」と，とても嬉しそうだった。長男嘉宣君は診療所を継ぎ，大学の高齢者歯科医療の講義など多忙，お嫁さんは東歯の同級生で光永友紀先生のお孫さん，お孫さんは大学院生。次男の雅郎君は矯正で横浜開業。

近年，夫妻で愛車を駆って青森から山口まで本土周遊し，又佐倉の国立歴史民族博物館に歴史探索に通ったりで，やっと車を降りたと聞いた所でした。

諸事に恵まれ，充実した人生。奇しくも一貫して生涯を捧げた歯科公衆衛生週間中の6月4日永眠，86才。（酒匂睦夫 記）

—— 筒井 豊さんを偲んで —— 弥生会（昭和54年卒） ——



平成20年10月夜に電話で「これから肺癌の手術をすることになった」と，うち明けて頂いたのが交流の再開

でした。在学中の筒井さんは，歯科医の4代目，穏やかな人柄で女子たちにも人気があり，我がC班の中心人物でした。私とはポン友で，十八番の演歌の鼻歌を聞きながらの楽しい時間を過ごしたものでした。卒後は郷里大分県中津で開業。盆暮れの便りで，一転真面目に総義歯を得意として仕事をしていること，ゴルフのHCが5.8になったこと，などを

年々上達する水墨画や色彩画を添えて知らせてくれていました。

手術後程なく仕事にも復帰し，ゴルフもクラブコンペで優勝するなど，ただ者ではないところを見せてくれました。奥様と美術館巡りを楽しみ，戸外に出てのスケッチも出来るようになられ，平成22年の年賀状には寒椿の絵が描かれていました。秋11月には還暦を迎えられ，贈った赤いマフラーを白衣の上に巻き診療室から写メールをしてくれましたが，年末に容態が悪化し閉院。平成23年の年賀状は頂けませんでした。

1月に中津に見舞った時には座って会話をして下さり，「仕事も絵もゴルフも人間関係も全てその人の感性

だな，春には水墨の桜を秋には彩色の紅葉を描きたいな，少し良くなったら東京の美術館にも行きたいな」と話してくれました。また来るからね，と言って別れましたが，叶わず。5月22日看護師の奥様に見守られ天国に旅立たれました。葬儀はご遺志によりお身内だけで静かにとり行われました。子どもさんは1男2女をみごとに育て上げられましたが，享年60歳まだまだ人生に意欲がおりだったのでは，と残念です。ご冥福をお祈りいたします。

（筒井さんの絵は同窓会ホームページに掲載）

（昭和54年卒・二階堂毅彦 記）

◆投稿規定

(1) 原稿締切り

原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

(2) 投稿様式

投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。

(3) 投稿字数

- ① 「すいどうばし」欄(随想、詩、短歌、時評など)は、1編1,600字程度
- ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3

段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。

③ 「追悼」は、500字程度

- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。

なお、掲載については委員会にご一任いただきます。

(5) 写真等の返却

写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。

写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧ください。

◆へんしゅうこうき

★ 震災の影響により前号は4・6月合併号になりましたが、本号から再び平常通りに発行いたします。本誌の送付にあたり、前号より封筒を紙からビニールに変更いたしました。袋を透明化することにより内容が分かりやすくなりましたので、「積ん読」にならないよう是非ご開封いただき、ご一読戴きたいと思っております。編集部一同の願いです。

★ 本号の鈴木一雄先生による記事は、被災の状況が生々しくそして刻銘に描写され、臨場感あふれるタッチが想像を絶する写真と相俟って、感動的にすら思えるドキュメントになりました。そして福島県支部佐藤正矢先生の心の叫び。被害の甚大さを再認識いたしました。被災された方々に対して改めて心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りする次第です。

★ 震災以来、日本国中を沸かせた明るい話題といえば、なでしこジャパンの活躍でありましょう。代表の沢穂希選手の名は勿論「誉れ」に通じ、沈みきった日本人の心を大きく明るく昂揚させてくれました。日本は岩戸神楽以来、救世主の主人公はやはり女性のようなのです。本誌がお手元に届く頃は、こんどは、秋の七草の「撫子」が野山を彩っていることでしょうか。

★ さて、水道橋新キャンパスは、リパーク跡地に重機が入り、さいかち坂新校舎も来年4月に新入生を迎えるべく着々と建設が進行中です。金子新理事長、井出新学長のもと、新しい東歯の幕開けを担う「さいかち坂一期生」になるべき諸君に対し、「稲毛の一期生」の私は何となく親近感を覚え、未だ見ぬ新入生たちの今後の活躍に心密かにエールを送っています。(渡邊 宇一 記)

広報部委員会

委員長
委員

三友 和夫
東郷 幹夫
小池 修
古澤 成博
志村 圭子
福井 雅之
渡邊 宇一
島田 篤

広報部担当理事

白田 準

平成23年8月20日 印刷

平成23年8月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第382号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 白 田 準

編集人 三 友 和 夫

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)